

平成22年度

学校教育法 109条第1項に基づく自己点検・評価

平成23年6月

公立大学法人九州歯科大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6番1号
設立の根拠となる法律名	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	19,679,209,480円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設 10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格 昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称 (昭和22年4月医学科廃止) 24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格 平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立</p>
法人の目標	<p>公立大学法人九州歯科大学では、豊かな人間性と探求心を育む歯科医学教育を学生に提供し、的確な判断力と高い技術力のもとより、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の健康管理が行える歯科医師及び歯科衛生士を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育: 歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 ・適性のある優秀な人材の確保・育成 ・教育の質の改善 ・学生への支援 2. 研究: 大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究水準並びに研究成果の向上 3. 社会貢献: 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施 4. 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・運営体制の改善 ・人事の適正化 5. 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自己収入の増加 ・経費の抑制 ・附属病院経営の改善 6. 評価: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。 <ul style="list-style-type: none"> ・評価の充実 7. 情報公開: 情報公開を積極的に推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報の公開等の推進

法人の業務	1. 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 2. 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3. 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4. 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5. 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6. 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
-------	--

2. 組織・人員情報

(1)役員

役員の数値は、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	福田 仁一	2年(平成22年～平成24年3月31日)	九州歯科大学 学長
副理事長	志波 朋和	2年(平成22年～平成24年3月31日)	ホクシン(株)代表取締役副社長
常務理事(事務局長)	辛島 秀典	2年(平成22年～平成24年3月31日)	九州歯科大学 事務局長
理事(学外)	重瀬 雅敏	2年(平成22年～平成24年3月31日)	北九州商工会議所 会頭
理事(学外)	大家 重夫	2年(平成22年～平成24年3月31日)	久留米大学法学部特任教授
理事(学内)	西原 達次	2年(平成22年～平成24年3月31日)	歯学部長(感染分子生物学分野教授)
理事(学内)	寺下 正道	2年(平成22年～平成24年3月31日)	附属病院長(総合診療学分野教授)
監事	廣瀬 隆明	2年(平成22年～平成24年3月31日)	広瀬公認会計士事務所 所長
監事	配川 寿好	2年(平成22年～平成24年3月31日)	若戸法律事務所 弁護士

(2)教員

		H18	H19	H20	H21	H22	H23
教員数	常勤(正規)	121人	119人	119人	116人	120人	
	内訳						
	教授	22人	24人	23人	22人	25人	
	助教授	19人	—	—	—	—	—
	准教授	—	16人	15人	16人	18人	
	講師	18人	16人	16人	14人	10人	
	助教	—	63人	65人	64人	67人	
	助手	62人	人	人	人		
非常勤講師	128人	136人	134人	135人	144人		
合計		249人	255人	253人	251人	264人	

教員数増減の主な理由

常勤教員増の理由: 口腔保健学科新設に伴う教員採用によるもの

(3)職員										
		H18	H19	H20	H21	H22	H23			
職員数	事務局長	1人	1人	1人	1人	1人				
	正規職員	県派遣	66人	52人	52人	41人	38人			
		プロパー	人	11人	11人	18人	24人			
		他団体派遣	人	人	人	人				
		その他	人	人	人	人				
	計	66人	63人	63人	59人	62人				
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	49人	59人	57人	55人	54人				
合計	116人	122人	121人	115人	117人					
職員数増減の主な理由										
県派遣職員減の理由: 附属病院における県派遣看護師の転出及び技術職員の退職、会計・決算事務を業者に委託したことによる事務職員の減による										
(4)法人の組織構成										
歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局										
3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定数充足率の推移 (%)					
					H18	H19	H20	H21	H22	H23
大学	計	715人	687人	96%	95	96	95	94	96	
内訳	歯学部	595人	592人	100%				100	100	
	歯学科	570人	567人	99%	103	103	101	100	99	
	口腔保健学科	25人	25人	100%					100	
	大学院 歯学研究科	120人	95人	79%	58	64	70	70	79	
〇〇	計	人	人	%						
内訳	〇〇学部	人	人	%						
	〇〇学科	人	人	%						
	〇〇学科	人	人	%						
	大学院 〇〇研究科	人	人	%						
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										
歯学部歯学科が100%未満の理由: 年度途中で退学した学生がいたため 大学院が90%以下の理由: 平成18年度から始まった歯科医師臨床研修制度の影響で平成18年度の新卒大学院生の入学者はなく、その後も大学院に進み研究を志す学生が減少する傾向にあり、定員に満たない入学状況が続いているため										

(1)経営協議会				
区分	氏名	任期	現職	
理事長	福田 仁一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	公立大学法人九州歯科大学理事長	
副理事長	志波 朋和	平成22年4月1日～平成24年3月31日	公立大学法人九州歯科大学副理事長	
学外委員	秋山 治夫	平成22年4月1日～平成24年3月31日	福岡県歯科医師会会長	
	岡野 正敏	平成22年4月1日～平成24年3月31日	岡野パルプ(株)代表取締役社長	
	北橋 健治	平成22年4月1日～平成24年3月31日	北九州市長	
	小川 弘毅	平成22年4月1日～平成24年3月31日	西部ガス(株)代表取締役会長	
	信友 浩一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	福岡市医師会成人病センター病院長	
	大下 一幸	平成22年4月1日～平成24年3月31日	福岡県立小倉高校校長	
	近藤 真	平成22年4月1日～平成24年3月31日	福岡国際法律事務所 弁護士	
	松延 彰友	平成22年8月5日～平成24年3月31日	九州歯科大学同窓会会長	
(2)教育研究協議会				
区分	氏名	任期	現職	
学長(理事長)	福田 仁一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 学長	
学部長	西原 達次	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 歯学部長	
学内組織の長	辛島 秀典	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 事務局長	
	寺下 正道	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 附属病院長	
	柿木 保明	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学 附属図書館長	
	鱒見 進一	平成22年4月1日～平成24年3月31日	九州歯科大学大学院歯学研究科長	

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 1 教育	「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する」 (1)特色ある教育の展開 九州歯科大学は、高度な専門性を持ち先端医療を担える能力、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力を育成するための教育を実施する。 (2)教員の教育能力の向上 教員の個人業績評価制度と任期制を導入し、教育能力の向上と教育活動の活性化を図る。個人業績の評価は授業活動を中心として行い、その結果を人事や給与に反映させ、教員の職務へのインセンティブの付与を図る。 (3)優秀な学生の確保・育成 大学が求める優秀な学生を確保するため、高校訪問、出前講義、オープンキャンパスなどの広報活動を充実させ、高校生等に九州歯科大学の魅力を広げ伝える。また、特待生制度の導入、入試方法の見直し、厳格な成績評価の実施などにより、優秀な学生を選抜し、育成する。 シラバスに、各科目の到達目標と成績評価基準を明確に示して学生の目標設定を容易にし、学生の学習意欲を高め、自主的な学習を促す。 (4)歯科医師国家試験合格率の向上及び就職支援の充実 学習相談などの学生の学習に対する支援を充実し、歯科医師国家試験合格率の向上に取り組むとともに、就職先開拓や求人情報の提供など、教職員が一体となって就職支援の充実を図る。																				
中期計画		平成22年度計画		ウエイト		自己評価			通し番号												
項目	実施事項	中期	年度	計画の実施状況等			中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番 号	中期	年度									
1. 地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成	【コミュニケーション能力、倫理観、探求心の育成】 ①患者の痛みを理解し、意思疎通ができる能力を養成するため医療行動学をはじめ、心理学、哲学などの素養教育を充実する。 ②高い倫理観を持った歯科医師及び歯科衛生士を育成するため、医の倫理を主とした倫理学といった素養教育を充実する。 ③学生が主体的・能動的に学習し、探求心を身につけるためチュートリアル教育を充実する。	1-1	1	【平成22年度の実施状況】 ○FDで、「初年度教育の充実」といったテーマのワークショップを開催し、歯科医療人教育における導入教育の重要性について認識を高めた。 ○医療系大学として生物系授業の充実を図り、口腔保健学科と歯学科の学生合同で基礎生命科学実習Ⅰ、Ⅱを開講した。 ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>目標</td> <td>今期実績</td> </tr> <tr> <td>・学生の成績</td> <td>良以上60%以上 76.2%</td> </tr> <tr> <td>・学生による授業評価</td> <td>4以上60%以上 25.0%</td> </tr> <tr> <td>・個人業績評価</td> <td>B以上80%以上 25.0%</td> </tr> <tr> <td>・同僚による授業評価</td> <td>4以上60%以上 平均4.69(満点5.0)</td> </tr> </table>			目標	今期実績	・学生の成績	良以上60%以上 76.2%	・学生による授業評価	4以上60%以上 25.0%	・個人業績評価	B以上80%以上 25.0%	・同僚による授業評価	4以上60%以上 平均4.69(満点5.0)	B		初年度教育の重要性を理解し、学生に分かり易い授業を行なうなど改善に努め、学生の成績向上につながった。特に、口腔保健学科と歯学科の合同実習で生物系科目を強化したところ、個別に行なったアンケート調査で、学生から高い評価を得た。		1
		目標	今期実績																		
		・学生の成績	良以上60%以上 76.2%																		
		・学生による授業評価	4以上60%以上 25.0%																		
		・個人業績評価	B以上80%以上 25.0%																		
・同僚による授業評価	4以上60%以上 平均4.69(満点5.0)																				
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																					
○達成目標 ・学生の成績:良以上60% ・学生による授業評価:4以上60% ・個人業績評価(授業活動):B以上80%		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】																
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																			
年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容																
18																					
19																					
20																					
21																					
22																					

中期計画		平成22年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																																									
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度																																							
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般教育科目において、新たにコミュニケーション能力開発と倫理観の醸成につながる科目(歯科医師入門学Ⅰ、Ⅱ)を開講した(H18) ・自ら考えて問題を解決する能力を培うテュートリアル教育を本格導入した(H18-20) ・北九州市地区4大学連携を活用し、非常勤講師による、中国語・韓国語(第2外国語)を開講した(H19) ・素養教育担当教員に対して、FDを通じて、教育法の改善を求めた、選択科目の非常勤講師に対しても、学部長が大学の教育方針を説明し理解を求め、歯科医学に興味を感じるような内容を組み込んだ。その結果、学生満足度が1.2年次選択科目で0.25アップ(H20年度実績:3.36 → H21年度実績:3.61)した。選択科目の中で、歯科医学につながる素養科目を充実させた。(H21) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>: H18実績</td> <td>→</td> <td>H19実績</td> <td>→</td> <td>H20実績</td> <td>→</td> <td>H21実績</td> </tr> <tr> <td>・学生の成績良以上</td> <td>: 66%</td> <td>→</td> <td>73%</td> <td>→</td> <td>73%</td> <td>→</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>・学生の授業評価4以上</td> <td>: 36%</td> <td>→</td> <td>51%</td> <td>→</td> <td>38%</td> <td>→</td> <td>38%</td> </tr> <tr> <td>・個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>: 41%</td> <td>→</td> <td>50%</td> <td>→</td> <td>50%</td> <td>→</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>・同僚による授業評価(満点5点)</td> <td>: -</td> <td>→</td> <td>-</td> <td>→</td> <td>4.2</td> <td>→</td> <td>4.2</td> </tr> </table>		: H18実績	→	H19実績	→	H20実績	→	H21実績	・学生の成績良以上	: 66%	→	73%	→	73%	→	73%	・学生の授業評価4以上	: 36%	→	51%	→	38%	→	38%	・個人業績評価(授業活動)B以上	: 41%	→	50%	→	50%	→	33%	・同僚による授業評価(満点5点)	: -	→	-	→	4.2	→	4.2	B			中期 1	
	: H18実績	→	H19実績	→	H20実績	→	H21実績																																											
・学生の成績良以上	: 66%	→	73%	→	73%	→	73%																																											
・学生の授業評価4以上	: 36%	→	51%	→	38%	→	38%																																											
・個人業績評価(授業活動)B以上	: 41%	→	50%	→	50%	→	33%																																											
・同僚による授業評価(満点5点)	: -	→	-	→	4.2	→	4.2																																											
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○素養教育の一層の充実につとめ、学生の学習意欲を高めるカリキュラムを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・FD活動を継続し、初年次教育を充実させる。 ・選択科目(26科目)の内容を充実させ、学生の学習意欲を高める。 ○数値目標 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上 ・同僚による授業評価 4以上 60%以上 																																													
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																																																
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】																																														
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																																																
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	評価委員会 ウエイト	自己評価 評価	評価委員会 ウエイト	業務実績評価書の記載内容																																											
		18～21年度(4年間)																																																
		18～22年度(5年間)																																																

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等		自己評価			通し番号										
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度								
												中期	年度								
2【歯科医師及び歯科衛生士として備えるべき基礎的知識に関する教育の徹底】 学生が確実に知識および技術を身につけられるよう、教育方法の工夫・改善を行う。 ○達成目標 ・学生の成績:良以上60% ・学生による授業評価:4以上60% ・個人業績評価(授業活動):B以上80%	2-1【平成22年度計画】 ○歯科基礎教育において統合化された授業の内容の充実に努める。 ・一般基礎医学および歯科基礎医学の教育内容について、相互に意見交換を行い、基礎と臨床の一体となった問題解決型チュートリアル教育を促進する。 ・2年次に開講する口腔保健学科における歯科基礎医学科目を精選する。 ○数値目標 ・今後の共用試験CBT得点率70%以上を目指す。 ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上 ・同僚による授業評価 4以上 60%以上	1	1	【平成22年度の実施状況】 ○口腔保健学科の歯科基礎科目については、歯学科の合同授業を行なうことで、質的向上を図ることができた。 ○昨年度の共用試験CBT得点率と比較すると、全国的には1.2%低下しているのに対し、本学では75.8%(H21)から76.1%に上昇した。 ○数値目標 共用試験CBT 得点率:76.1%(H23.2月~3月受験者1,520人の平均70.9%) ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績 目標 今期実績 ・学生の成績 良以上60%以上 69.4% ・学生による授業評価 4以上60%以上 30.0% ・個人業績評価 B以上80%以上 23.8% ・同僚による授業評価 4以上60%以上 平均3.94				A				2									
				(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																	
				【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)									(決定)		【意見・コメント等】						
				【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																	
				年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価 評価						ウエイト	ウエイト	業務実績評価書の記載内容						
				18																	
				19																	
				20																	
				21																	
				22																	
		1	1	【平成18~21年度の実施状況概略】 ・学部長主導のもと、古典的な区分「解剖学」「口腔解剖学」「生理学」「口腔生理学」「生化学」といった枠組みを「基礎生命科学」および「口腔基礎生命科学」に統合して、学生に分かり易いカリキュラム編成にした(H18-19) ・本館に新設した「相互実習室」「シミュレーション実習室」で態度教育実習を開始し、ロールプレーなど新たな教育手法を導入した(H19-20) ・3年次「感染と免疫Ⅲ」及び「感染と免疫Ⅳ」において、微生物学、薬理学、予防歯科学、内科学を軸として、感染症に関するチュートリアル教育(4単位)を行った。(H21) ○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21実績 ・学生の成績良以上 : - → 67% → 68% → 66% ・学生の授業評価4以上 : - → 20% → 25% → 35% ・個人業績評価(授業活動)B以上 : 36% → 50% → 48% → 48% ・同僚による授業評価(満点5点) : - → - → 4.3 → 4.4				A				中期 2									
				【平成23年度の実施予定】 ○歯科基礎教育において統合化された授業の内容の充実に努める。 ・一般基礎医学および歯科基礎医学の教育内容について、相互に意見交換を行う。 ・基礎と臨床の一体となった問題解決型チュートリアル教育を促進する。 ○数値目標 ・今後の共用試験CBT得点率70%以上を目指す。 ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上 ・同僚による授業評価 4以上 60%以上																	
				(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																	
				【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)									(決定)		【意見・コメント等】						
				【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																	
				中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	ウエイト	評価 評価						ウエイト	ウエイト	業務実績評価書の記載内容						
				18~21年度(4年間)																	
				18~22年度(5年間)																	

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等		自己評価			通し番号			
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
												中期	年度	
3【的確な判断能力、治療技術力の育成】 ①豊富な事例を通して、患者の訴えや症状から、疾病原因の正確な診断や最適な治療方法を見出すことのできる能力を身につけさせる。 ②臨床実習において、技術力や診断能力が身につけているか厳格に評価する。 ③歯科臨床に対する高い意識と研究心を養うため、研究室配属を5年生すべてを対象に行う。(歯学科のみ) ④卒業論文指導を通して研究心を養う。(口腔保健学科のみ) ⑤医療に携わる者としての使命感を育成するため、口腔保健活動や救急車同乗実習などを充実させる。 ⑥医療経営および社会保険制度に関する教育を充実させる。 ○達成目標 ・学生の成績:良以上80% ・学生による授業評価:4以上60% ・個人業績評価(授業活動):B以上80%	3-1【平成22年度計画】 ○臨床教育全体を見直し、系統的な再編に取り組む。 ・的確な診断・治療技術を取得させるために、学部教育(3,4年次)に臨床基礎教育の充実を進める。 ・臨床基礎実習において、AVコンテンツの稼働率を50%とする。 ・OSCE(客観的臨床能力試験)100%合格を継続する。 ・口腔保健学科における実習対象施設での教育内容を検討する。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 80%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上	2	2	【平成22年度の実施状況】 ○保存・補綴系の臨床基礎教育を統合し、臨床登録実習にスムーズに移行できる形に改編した。 ○あわせて、AVコンテンツの作成しライブラリーを充実させた。 ・AVコンテンツ稼働率60% ○OSCE合格率:100% ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績 目標 今期実績 ・学生の成績 良以上80%以上 86.8% ・学生による授業評価 4以上60%以上 25% ・個人業績評価 B以上80%以上 23.8% ○同僚による授業評価 平均3.94	A	5,6年次生で行なっている参加型臨床実習を効果的に行えるように、AVコンテンツを利用した臨床基礎実習を3,4年次生を対象に行なった。 新たに作成したAVコンテンツによる実習の満足度を個別に調べたところ、高い評価が得られた。		3						
	(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)													
	【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】								
	【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)													
	年度	自己評価	評価委員会	備考	業務実績評価書の記載内容									
	18													
	19													
	20													
	21													
	22													
				2	2	【平成18~21年度の実施状況概略】 ・附属病院における臨床実習書を改訂し、参加型統合実習を充実させた(H18-19) ・本館に新設したシミュレーション実習室および技工実習室におけるビデオコンテンツを開発し、AV(オーディオビジュアル)システムによる実習を開始した(H20) ・H18年度から北九州市の協力を得て、5年次生の救急車同乗実習を開始した。 ・5~6年次生における病院臨床を統合化し、臨床実習における参加型実習の割合を10%向上(H20年:40% → H21年:50%)させた。5,6年次生の統合型臨床実習を充実させ、「総合歯科外来」では、全ての学生が参加型実習を行える体制を整えた。(H21) ・3,4年次の実習システムを統合化し、新たに作成したAVコンテンツ(実習書をモニター画面上で閲覧できるシステム)を用いて臨床基礎実習教育を充実し、使用率が50%に達した。(H21) ・OSCE合格率:100%を維持した。(H21) ○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21実績 ・学生の成績良以上 : - → 81% → 88% → 75% ・学生の授業評価4以上 : - → 34% → 35% → 28% ・個人業績評価(授業活動)B以上 : - → 50% → 48% → 48% ・同僚による授業評価(満点5点) : - → - → 4.3 → 4.4	A		中期	3				
						【平成23年度の実施予定】 ○臨床教育全体を見直し、系統的な再編に取り組む。 ・的確な診断・治療技術を取得させるために、学部教育(3,4年次)を統合化する。 ・臨床基礎実習の統合化を図る。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 80%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上								
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)														
【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】									
【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)														
中期目標期間評価 (自己評価)	自己評価	評価委員会	備考	業務実績評価書の記載内容										
18~21年度(4年間)														
18~22年度(5年間)														

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
4	【専門医療、高度先進医療を行える人材の育成】 ①高齢者、要介護者の口腔ケアや摂食:嚥下指導のため歯科医師及び歯科衛生士を育成し、摂食機能リハビリテーション分野を充実する。 ②高度な専門性を持ち、先端医療を担える医療人の育成を行うために歯科矯正科、歯周病科、口腔外科等の専門診療部門の教育内容を継続的に見直す。 ○達成目標 ・学生の成績:良以上60% ・学生に夜授業評価:4以上60% ・個人業績評価(授業活動):B以上80%	4-1	【平成22年度計画】 ○附属病院臨床実習書に基づき、臨床実習システムで参加型の比率を高める。 ・細分化していた病院臨床実習を一部統合した「統合教育ユニット」より質の高い参加型実習(5、6年次)を行う。 ・専門外来ユニットにおける臨床実習(見学主体)で、多くの症例を経験させる。 ・口腔保健学科における臨床実習書を作成する。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 60%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上	1	【平成22年度の実施状況】 ○今年度診療科再編を行ない、臨床実習書のポリッシュ・臨床実習システムを改善して、参加型実習の比率を向上させた。 ○口腔保健学科の臨床実習書を作成した。 ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績 目標 今期実績 ・学生の成績 良以上60%以上 86.8% ・学生による授業評価 4以上60%以上 40.0% ・個人業績評価 B以上80%以上 33.8% ○同僚による授業評価 平均4.23		A	学生の成績が74.7%から86.8%と大幅に上昇し、臨床実習システムの改編が数字として表れてきた。			4	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		18										
19												
20												
21												
22												

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																																														
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度																																												
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属病院の「歯科矯正科」「歯周病科」「口腔外科」における臨床実習を充実させた(H18-19) ・専門医療および高度先進医療技術に関する知識を深めるためにポートフォーリオ(学生自身が実習達成度を管理するシステム)を導入した。21年度は60%の診療で活用し(H20:40%)、そこで得た学習達成度ファイルを分析した。(H20～H21) ・統合型臨床実習における専門医療及び先進医療に関する臨床実習を10%(H20年:40% → H21年:50%)増加させ、口腔ガン、顎骨骨折、外科的歯科矯正などを附属病院病棟や手術室で見学する機会を増やした。(H21) <p>○目標実績</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td></td> <td>H18実績</td> <td>→</td> <td>H19実績</td> <td>→</td> <td>H20実績</td> <td>→</td> <td>H21実績</td> </tr> <tr> <td>・学生の成績良以上</td> <td>:</td> <td>—</td> <td>→</td> <td>81%</td> <td>→</td> <td>88%</td> <td>→</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>・学生の授業評価4以上</td> <td>:</td> <td>—</td> <td>→</td> <td>33%</td> <td>→</td> <td>100%</td> <td>→</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>・個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>—</td> <td>→</td> <td>55%</td> <td>→</td> <td>48%</td> <td>→</td> <td>48%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・同僚による授業評価(満点5点)</td> <td>:</td> <td>—</td> <td>→</td> <td>—</td> <td>→</td> <td>4.1</td> <td>→</td> <td>3.9</td> </tr> </table>			H18実績	→	H19実績	→	H20実績	→	H21実績	・学生の成績良以上	:	—	→	81%	→	88%	→	75%	・学生の授業評価4以上	:	—	→	33%	→	100%	→	100%	・個人業績評価(授業活動)B以上	—	→	55%	→	48%	→	48%		・同僚による授業評価(満点5点)	:	—	→	—	→	4.1	→	3.9	A			中期 4	
		H18実績	→	H19実績	→	H20実績	→	H21実績																																															
・学生の成績良以上	:	—	→	81%	→	88%	→	75%																																															
・学生の授業評価4以上	:	—	→	33%	→	100%	→	100%																																															
・個人業績評価(授業活動)B以上	—	→	55%	→	48%	→	48%																																																
・同僚による授業評価(満点5点)	:	—	→	—	→	4.1	→	3.9																																															
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○臨床教育全体を見直し、系統的な再編に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・的確な診断・治療技術を取得させるために、学部教育(3,4年次)を統合化する。 ・臨床基礎実習の統合化を図る。 ○数値目標 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績 良以上 80%以上 ・学生による授業評価 4以上 60%以上 ・個人業績評価 B以上 80%以上 																																																		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																																																					
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】																																																		
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																																																					
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容																																																		
		評価	ウェイト	評価	ウェイト																																																		
		18～21年度(4年間)																																																					
		18～22年度(5年間)																																																					

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等		自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ	通し	
								変更	年度		番号	中期	年度
5【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】	①各科目の到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、厳格な成績評価を行う。 ②科目間で整合性のある成績評価方法を検討する。 ○達成目標 ・学生の成績:良以上60% ・国家試験合格率全国10位以内	5-1	【平成22年度計画】	1	【平成22年度の実施状況】	1	【平成22年度の実施状況】			A		5	
		○シラバスに明確な評価基準および到達目標を明示し、学生が歯学教育の流れを理解できたかどうか検証する。 ・継続したFDワークショップを行い、教員全員出席のもと教育意識の向上を図る。 ・学生に歯科医師になるための行動計画を立てさせ、自覚を促す。 ・成績表の保護者への送付と保護者説明会の開催する。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 60%以上	○FDワークショップでシラバスの記載について、教員の意識の向上を図り、今年度は教務部会で全ての授業科目のシラバスを検証した。その結果、歯科医師育成という視点で極端に逸脱した授業内容を変更することができた。 ○学生に対しては、行動計画を出させ、年次毎にファイルするように指導した。 ○保護者説明会を東京と北九州で開催し、63名の学生を対象に保護者を加えた形で面談した。 ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績 目標 今期実績 ・学生の成績 良以上60%以上 76.2% ・学生による授業評価 4以上60%以上 26.3% ・個人業績評価 B以上80%以上 29.6% ○同僚による授業評価 平均4.19	保護者説明会で、保護者が学生の成績を知り、三者面談の中で改善策を見出すことができたようになった。									
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】							
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
		年度	自己評価	評価委員会	備考	業務実績評価書の記載内容							
		評価	評価	評価	ウエイト								
		ウエイト	ウエイト	ウエイト	ウエイト								
		18											
		19											
		20											
		21											
		22											
5【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】			【平成18～21年度の実施状況概略】	1	【平成18～21年度の実施状況概略】	1	【平成18～21年度の実施状況概略】			A		中期 5	
		○シラバスに明確な評価基準および到達目標を明示し、学生が歯学教育の流れを理解できたかどうか検証する。 ・継続したFDワークショップを行い、教員全員出席のもと教育意識の向上を図る。 ・学生に歯科医療人になるための行動計画を立てさせる。 ・成績表の保護者への送付と保護者説明会を継続する。 ○数値目標 ・学生の成績 良以上 60%以上	・医療系大学(医学・歯学)におけるモデル・コア・カリキュラムに準じたシラバス作りを行い、そこで各教科の評価をシラバスに表示した(H18) ・オリエンテーション等で成績評価について学生に周知し、厳正な評価を行った(H18-H20) ・カリキュラム改訂が進むなかで、休学あるいは留年した学生に対しても、理解できるように対応をした(H19-20) ・シラバスには明確な評価基準および到達目標を明示した。さらに、シラバスにモデル・コアカリキュラムに準じた教育で習得できる範囲を明示したことで、個々の科目と歯学モデル・コアカリキュラムの対応を分かりやすくした。さらに学年主任と副任を各学年に配置し、学生の修学状況を把握する体制を構築した。(H21) ・H21年度FDワークショップには全教員が参加し、活発な意見交換を行った。(H21) ・2年次・3年次の「歯科医師入門学」で学生に行動計画表を提出させた。(H21) ・1～6年次生全学生及び保護者に成績表を送付した。その中で精神的に不安定な学生及び成績不振学生の保護者に通知し、東京と北九州で保護者説明会を開催した。(H21) ○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21実績 ・学生の成績良以上 : 73% → 72% → 73% → 70% ・学生の授業評価4以上 : — → 42% → 34% → 32% ・個人業績評価(授業活動)B以上 : — → 54% → 46% → 46% ・同僚による授業評価(満点5点) : — → — → 4.4 → 4.0										
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】							
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
		中期目標期間評価	自己評価	評価委員会	備考	業務実績評価書の記載内容							
		(暫定評価)	評価	評価	ウエイト								
		ウエイト	ウエイト	ウエイト	ウエイト								
		18～21年度(4年間)											
		18～22年度(5年間)											

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
6	【教育の成果・効果の検証】 ①全国の歯学部で行われている共用試験(「OSCE」、「CBT」)を成績評価の対象とする。(歯学科のみ) ②国家試験の合格率を上げるため、入学試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、入試、教育方法、成績評価基準などの見直しにつながるシステムを作り、常に検証していく。(共用試験は歯学科のみ) ○達成目標 ・教育方法等の見直しにつなげるシステムをH19までに構築し、常に改善していく。 ・国家試験合格率全国10位以内(歯学科) ・共用試験の平均成績:全国絵平均以上 ・国家試験全員合格(口腔保健学科)	6-1	【平成22年度計画】 1【共用試験】 ○共用試験結果を解析し、データを開示し、成績不振科目を中心に改善を進める。 ・これまで蓄積してきたデータを解析し、弱点科目を克服するために、教務部会を軸に組織対応する。 ○数値目標 ・平均点 70%以上	1	1	【平成22年度の実施状況】 ○過去の共用試験CBTの結果と歯科医師国家試験合否の相関が分かるようになり、教務部会を中心とした学生指導で客観的な数値を提示することが可能となった。 ○CBTのデータから、モデル・コア・カリキュラムのうち、どの科目が不得意かが明確になるので、それに対して補講等の措置を取った。 ○中期計画の計画期間における達成目標の今期実績 目標 今期実績 ・平均点 70%以上 76.1%(CBT得点率)	A		データ分析が進み、CBT得点率70%以上を目指すように指導してきたところ、今年度は76.1%まで上昇した。			6
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	評価 ウェイト	評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
6	【教育効果の検証】 ○構築した成績管理システムの精度を向上させ、以下の目標設定達成を目指す。 ・学生の成績「良」以上が60%以上 ・学生による授業評価「4」以上が50%以上 ・共用試験全員合格 ○数値目標 ・個人業績評価 自己評価 B以上 80%以上	6-2	【教育効果の検証】 ○構築した成績管理システムの精度を向上させ、以下の目標設定達成を目指す。 ・学生の成績「良」以上が60%以上 ・学生による授業評価「4」以上が50%以上 ・共用試験全員合格 ○数値目標 ・個人業績評価 自己評価 B以上 80%以上	1	1	○学生の成績をGPA、CBT得点率及び歯科医師国家試験得点率の相関を調べるシステムを構築した。 ○数値目標 ・学生の成績「良」以上 76.2% ・学生による授業評価「4」以上 26.3% ○同僚による授業評価 平均4.19	B		共用試験CBTの平均得点率は上昇したが、85名の受験者のうち1名の不合格者(60%以下)が出た。			7
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	評価 ウェイト	評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
		6-3 【国家試験の合格率アップ】 ○国家試験の結果を解析し、教育カリキュラムを改編する。 ・第103回歯科医師国家試験(平成22年実施)不合格者および第104回歯科医師国家試験(平成23年)受験予定者の国家試験対策に、教員がチューターとして関わり不得意科目克服に向けて個人的指導を行なう。さらに既卒不合格者を対象とした特別講義や附属病院登院見学を実施する体制を整え、歯科医師として社会に貢献するという意識向上のために講演会などを開催する。 ・事務局による学生管理システムを強化することで、不合格者の成績不振科目を分析し、特別講義を開催する。 ・国家試験終了後、直ちに解答分析を行い本学の弱点を見つけ、今後の教育方針の参考とする。 ・国家試験合格率全国第10位以内を目指す。		2	○6年次生10名につき1名の教員が付き、不得意科目克服のために補講等の指導を行った。 ○既卒不合格者21名のうち5名が本学で学習し、全員合格した。 ○今年度の国家試験結果 新卒者:93.5%(全国4位) 既卒者:50.0%(全国11位) 総 合:86.5%(全国4位)		A+	9	8	8	
		【評価委員会】 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		年度 評価	自己評価 評価	評価 ウェイト	評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容				
		18									
		19									
		20									
		21									
		22									
				1		【平成18~21年度の実施状況概略】 ・共用試験(CBT,OSCE)が臨床実習前に合格すべき要件とし、教授会で合格基準をCBT回答率60%、OSCE得点率60%に設定した(H18) ・学生の成績評価にGPAシステムを導入し、年度毎に学生および保護者に「成績証明書」をするようにして、成績不振者に個別対応した(H19-H21) ・成績不振者等を対象に保護者個別説明会を東京および北九州で開催した(H20-H21) ・入学試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析したデータを保護者に示した。 ・共用試験(CBT, OSCE)のデータを学生に返却し、弱点を明示して、不得意科目を克服できるようにし、修学意欲を向上させた。さらに、担当教員に対しても担当科目の平均点を明示し、全国平均点と比較検討させ教育効果という視点でシラバスの改善を求めた。(H21) ・教務部会で共用試験データを分析し、FDワークショップで本学の教育における弱点について意見交換し、統合型に向けての教育連携の必要性を示した。(H21) ・講義に、臨床症例画像を多く取り入れて治療方法などがわかりやすい授業を行った。(H21) ・6年次生および既卒不合格者における国家試験対策を充実させた。(H21) ○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21年度 ・学生の成績良以上 : - → 72% → 73% → 70% ・学生の授業評価4以上 : - → 42% → 34% → 32% ・同僚による授業評価(満点5点) : - → - → 4.4 → 4.0 ・共用試験CBT平均回答率 (九州歯科大学) 82.9% → 80.2% → 76.4% → 84.7% (全国28大学平均) 78.3% → 76.1% → 73.5% → 69.7% ・歯科医師国家試験合格率全国順位 : 6位 → 11位 → 19位 → 10位		B		中期 6	

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共用試験結果を解析し、データを開示して、成績不振科目を中心に改善を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績データを解析し、弱点科目を克服するために、教務部会を軸に組織対応する。 ・数値目標 平均点 70%以上 ○構築した成績管理システムの精度を向上させ、以下の目標達成を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績「良」以上が60%以上 ・学生による授業評価「4」以上が50%以上 ・共用試験全員合格 ・数値目標 個人業績評価 自己評価 B以上 80%以上 ○国家試験の結果を解析し、教育カリキュラムを改編する。 <ul style="list-style-type: none"> ・第104回までの歯科医師国家試験(平成23年実施)で不合格となった者および第105回歯科医師国家試験(平成24年)受験予定者の国家試験対策に、教員がチューターとして関わり不得意科目克服に向けて個人的指導を行う。 ・事務局による学務管理システムを強化することで、不合格者の成績不振科目を分析する。 ・国家試験終了後、直ちに解答分析を行い、今後の教育方針の参考とする。 ・国家試験合格率全国第10位以内を目指す。 						
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
		18~21年度(4年間)									
		18~22年度(5年間)									

中期計画		平成22年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号									
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度							
2. 適正のある優秀な人材の確保・育成	1 【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】 アドミッションポリシーを明確にしてAO入試や特待生入試など優秀な学生を確保するための入試を導入する。 ○達成目標 ・特待生入試 受験倍率 辞退率 0% ・推薦入試 受験倍率2.5倍 辞退率 0% ・一般入試 受験倍率10倍 辞退率 3% センターランク 83%以上(前期・後期平均)	1-1	【平成22年度計画】 1【アドミッションポリシーの周知度】 ○平成19年度に開示したアドミッションポリシーの周知度を、HPや高校訪問などで向上させる。 ・(歯学科) AO入試: 志願倍率 5.0倍 受験倍率 3.0倍 辞退率 0% ・(歯学科) 一般入試: 志願倍率 5.0倍 受験倍率 5.0倍 辞退率 5% ・(口腔保健学科) 一般入試: 志願倍率 3.0倍 受験倍率 2.5倍 辞退率 0% ・センターランク (歯学科) 83%以上 ・訪問高校に対して周知度をアンケート調査する。	1	【平成22年度の実施状況】 ○高校訪問については、時期と有効性を検証して訪問先を決定した。 ○数値目標 (歯学科) ・AO入試: 志願倍率 3.7倍 受験倍率 3.7倍 辞退率 0% ・一般入試: 志願倍率 4.7倍 受験倍率 4.2倍 辞退率 8% ・センターランク 75% ・歯学科一般入試の志願倍率4.7倍の高さは全国29大学中第3位であった。 (口腔保健学科) ・AO入試: 志願倍率 5.7倍 受験倍率 5.7倍 辞退率 0% ・一般入試: 志願倍率 2.7倍 受験倍率 2.4倍 辞退率14% ・センターランク 63%	A	国立大学の平均受験倍率が3.9倍、さらに全国29大学中、入学定員を充足しなかった大学が11大学ある中で、昨年と同じく29大学中3位という高い志願倍率を得ることができた。	1	9									
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																
		年度評価	自己評価 評価 ウェイト							評価委員会 評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
		18																
		19																
		20																
		21																
		22																
		1-2	【AO入試の実施】 ○平成20年度からのAO入試の経験をふまえ、更に改善した運営を円滑に実施する体制を整備する。 ・AO入試で合格した在学生のデータを学教務システムに登録し、今後の進路調査を行い、歯科医師として適性を検証する。 ・FDを通して AO入試に対する教職員の意識向上を図る。 ・平成22年AO入試で定員枠を余した事由を分析し、次年度への改善に繋げる。 ・口腔保健学科のAO入試について、実施を検討する。							2	【平成22年度の実施状況】 ○AO入試で、過去2年間に合格した学生の入学後の成績をGPAと比較したところ、個別入試合格者と大きな差は認められなかった。 ○平成22年AO入試で定員枠に達しなかった理由を分析し、高校訪問先を変更・追加するなどして周知度を高めたところ、AO入試合格者は20名(定員どおり)となった。 ○口腔保健学科のAO入試を実施した。(5.7倍の受験倍率)	A	AO入試を志願する受験生の基礎学力が本学が求めるレベルに達し、AO入試(歯学科・口腔保健学科)で適正な実施を行うことができた。	1	10			
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】													
【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																		
年度評価	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容														
18																		
19																		
20																		
21																		
22																		

中期計画		平成22年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																																																
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度																																														
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーをホームページ等で明示した(H18) ・高校訪問、予備校訪問あるいは高校での出前講義等を充実させ、本学のアドミッションポリシーを積極的に発信した(H18-20) ・H21年度入試にAO入試の導入を決め、H20年度に実施運営した(H20) ・アドミッションポリシーに従い、厳正なAO入試(H21、11月実施)を行い、10名の合格者を得た。募集定員は17名であったが適正な入試合否判定を行い、求める学生に合致した学生を選抜した。(H21) ・AO入試開始2年目となり、昨年から学年成績を学教務システムを用いてデータの収集を開始した。(H21) ・AO入試に関連したFDを開始し、教員へのアドミッションポリシーの周知徹底を図った。(H21) ・今年度AO入試も含めて、入試方法別に成績をフォローする学教務システムを構築した。(H21) ・FDでAO入試をテーマとして取り上げ、教員の意識を向上させ、アドミッションポリシーに沿った形で、AO入試の面接と集団討論の採点が行われた。(H21) <table border="1"> <tr> <td>○目標実績</td> <td>: H18実績</td> <td>→</td> <td>H19実績</td> <td>→</td> <td>H20実績</td> <td>→</td> <td>H21実績</td> </tr> <tr> <td>・一般入試の受験倍率</td> <td>: 5.8倍</td> <td>→</td> <td>5.4倍</td> <td>→</td> <td>3.0倍</td> <td>→</td> <td>3.3倍</td> </tr> <tr> <td>・ 辞退率</td> <td>: 0%</td> <td>→</td> <td>3.6%</td> <td>→</td> <td>7.1%</td> <td>→</td> <td>11.0%</td> </tr> <tr> <td>・推薦入試の受験倍率</td> <td>: 2.4倍</td> <td>→</td> <td>2.4倍</td> <td>→</td> <td>-</td> <td>→</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・AO入試の受験倍率</td> <td>: -</td> <td>→</td> <td>-</td> <td>→</td> <td>2.7倍</td> <td>→</td> <td>5.0倍</td> </tr> <tr> <td>・センターランク</td> <td>: 85</td> <td>→</td> <td>81</td> <td>→</td> <td>83</td> <td>→</td> <td>83</td> </tr> </table>	○目標実績	: H18実績	→	H19実績	→	H20実績	→	H21実績	・一般入試の受験倍率	: 5.8倍	→	5.4倍	→	3.0倍	→	3.3倍	・ 辞退率	: 0%	→	3.6%	→	7.1%	→	11.0%	・推薦入試の受験倍率	: 2.4倍	→	2.4倍	→	-	→	-	・AO入試の受験倍率	: -	→	-	→	2.7倍	→	5.0倍	・センターランク	: 85	→	81	→	83	→	83	B			中期 7
○目標実績	: H18実績	→	H19実績	→	H20実績	→	H21実績																																																		
・一般入試の受験倍率	: 5.8倍	→	5.4倍	→	3.0倍	→	3.3倍																																																		
・ 辞退率	: 0%	→	3.6%	→	7.1%	→	11.0%																																																		
・推薦入試の受験倍率	: 2.4倍	→	2.4倍	→	-	→	-																																																		
・AO入試の受験倍率	: -	→	-	→	2.7倍	→	5.0倍																																																		
・センターランク	: 85	→	81	→	83	→	83																																																		
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アドミッションポリシーの周知度を、HPや高校訪問などで向上させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・(歯学科) AO入試: 志願倍率 5.0倍 受験倍率 3.0倍 辞退率 0% ・(歯学科) 一般入試: 志願倍率 5.0倍 受験倍率 5.0倍 辞退率 5% ・(口腔保健学科) 一般入試: 志願倍率 3.0倍 受験倍率 2.5倍 辞退率 0% ・センターランク 83%以上(歯学科) ・訪問高校に対して周知度をアンケート調査する。 ○平成20年度からのAO入試の経験を活かして、更に改善した運営を円滑に実施する体制を整備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・AO入試で合格した在学生のデータを学教務システムに登録し、今後の進路調査を行い、歯科医師として適性を検証する ・口腔保健学科のAO入試について、検証する。 																																																				
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																																																							
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+) ・A ・B ・C ・D)		(決定)	【意見・コメント等】																																																				
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・1→2)																																																							
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容																																																				
		18～21年度(4年間)																																																							
		18～22年度(5年間)																																																							

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
2	【在校生対象の特待生制度等の導入】 ①ティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を導入する。 ②現在の奨学金制度を充実させ、学生の経済的支援を図る。 ○達成目標 ・在学生の平均成績:良以上60% ・国家試験合格率全国10位以内	2-1	【平成22年度計画】 【TAとRA制度】 ○優秀な大学院生を確保するためにティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を活用する。 ・大学院充足率80%以上を目指す。	/	1	【平成22年度の実施状況】 ○TA、RA活用率が76.8%となり、この制度が大学院生に定着してきた。 ○大学院充足率は79.2%にとどまった。	/	B	大学院生にTA制度が定着し、キャリアパスを積むなかで、収入を得るシステムを確立することができた。		/	11
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18	/	/	/							
		19										
		20										
		21										
		22										
2		2-2	【奨学金制度】 ○学生生活の経済的支援を図るために、各種奨学金制度の情報の収集に努め、学生に情報を提供する。 ・教員が永松奨学会の理事会・評議会活動に協力し、連携を強化して、奨学金の増額を求めていく。 ・福岡県が追加承認した予算枠外の経費(2,600千円)を活用し、授業料減免措置で納付金困難の学生を援助する。 ・現在の不況下に鑑み、学生の経済的負担を軽減する対策について検討する。	/	1	○教員が永松奨学会の理事会・評議会の役員として協力し、永松奨学会の運営システムをきめ細やかに説明し、学生が奨学金を利用しやすい環境作りを行った。 ○福岡県が追加承認した予算枠外の経費を活用し、授業料減免措置で納付困難な学生への援助を行った。	/	B	今年度は授業料減免措置の枠を拡大し、対象者が30人(H21)から37人(H22)に増加した。	13	/	12
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18	/	/	/							
		19										
		20										
		21										
		22										

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの在校生に奨学金が貸与されるように、(財)永松奨学会(本学の学生・大学院生のための奨学金制度)と協議し、H20年度の貸与学生枠が3名分増加された(H18-20) 優秀な大学生確保の一貫として、ティーチングアシスタント(TA)およびリサーチアシスタント制度を立ち上げて実施運営した(H18-20) TAまたはRA制度を75.0%の大学院生が活用し、次世代を担う教育者・研究者として素養を培った。(H21) 教員が永松奨学会の理事会・評議会の役員として協力し、永松奨学会の運営システムをきめ細やかに説明し、学生が奨学金を利用しやすい環境作りを行った。(H21) <p>○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21年度</p> <p>・大学院充足率 : 58% → 64% → 70% → 89%</p> <p>・TAおよびRAの延べ従事実績 : 1803時間 → 1434時間 → 1791時間 →</p>	B			中期 8	
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 優秀な大学院生を確保するためにティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を活用する。 大学院充足率85%以上を目指す。 学生生活の経済的支援を図るために、各種奨学金制度の情報の収集に努め、学生に情報を提供する。 永松奨学会との連携を強化して、奨学金の増額を求めていく。 福岡県が追加容認した予算枠外の経費(1,983千円)を活用し、授業料減免措置で納付金困難の学生を援助する。 現在の不況下に鑑み、学生の経済的負担を軽減する対策を検討する。 					
		<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p>								
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+）・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		18～21年度(4年間)								
		18～22年度(5年間)								

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等		自己評価			通し番号																			
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度	中期	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度																			
3【広報活動の充実】	<p>①オープンキャンパスの実施内容を改善する。</p> <p>②出前講義や高校訪問を実施する。</p> <p>③各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に積極的に参加する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問数 延べ110校 ・入試説明会参加数 10 ・出前講義数 延べ2校 ・オープンキャンパス参加者数 210 <p>・高校訪問 良好評価60以上</p> <p>・入試説明会 良好評価60%以上</p> <p>・出前講義 良好評価60%以上</p> <p>・オープンキャンパス 評価4以上50%</p> <p>歯学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願者数(志願倍率) 960人(10倍) ・受験者数(受験倍率) 760人(8倍) <p>口腔保健学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願者数(志願倍率) 75人(3.0倍) ・受験者数(受験倍率) 60人(2.4倍) 	3-1	1	【平成22年度の実施状況】	1	【平成22年度の実施状況】	A	7	13																					
		<p>【平成22年度計画】</p> <p>【オープンキャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパスの内容等を工夫し充実させる。 ・ポスター掲示などして、事業広報を積極的に行う。 ・オープンキャンパス参加者数 210名以上 ・オープンキャンパス参加者アンケート 評価「4」以上80%以上 <p>【平成22年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページや進学説明会で広報活動に努めた結果、申込者が大幅に増加したため、模擬講義等の会場を講義室から講堂に変更した。アンケートにおいても模擬講義を始め多くのイベントで高い評価が得られた。 ○数値目標 ・オープンキャンパス参加者数 264名 ・参加者アンケート5段階評価で「4」以上 92% 	<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D) (決定)</p> <p>【意見・コメント等】</p> <p>【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>自己評価</th> <th>評価委員会</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>18</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>19</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>21</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>22</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>業務実績評価書の記載内容</p>	年度	自己評価	評価委員会	備考	評価	ウエイト	評価	ウエイト	18				19				20				21				22	
年度	自己評価	評価委員会	備考																											
評価	ウエイト	評価	ウエイト																											
18																														
19																														
20																														
21																														
22																														
3-2	<p>【平成22年度計画】</p> <p>【広報活動・出前講座・高校訪問・入試説明会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さまざまなメディアとリわけHPを利用して広報活動を充実させる。 ・各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に参加する。 ・受験生や高校関係者に対する広報活動の充実させる。 ・本学の教育・研究・社会貢献のトピックスをメディアを用いて発信する。 ・出前講座・高校訪問・入試説明会を積極的に活動し、充実させる。 ・受験者の少なかった福岡市の高校を重点に訪問するなどして志願者増へ働きかけるとともに、引き続き受験者の傾向を分析する。 <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座 2校以上 アンケート良好評価 60%以上 ・高校訪問 県内70校 県外40校 アンケート良好評価 80%以上 ・入試説明会 参加数 10回以上 アンケート良好評価 60%以上 ・歯学科 一般入試 志願倍率5.0倍 受験倍率 5.0倍 ・歯学科 AO入試 志願倍率5.0倍 受験倍率 3.0倍 ・口腔保健学科 一般入試 志願倍率3.0倍 受験倍率 2.5倍 	3-2	1	【平成22年度の実施状況】	1	【平成22年度の実施状況】	A	4 5 6	14																					
		<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p> <p>【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D) (決定)</p> <p>【意見・コメント等】</p> <p>【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>自己評価</th> <th>評価委員会</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> <th>評価</th> <th>ウエイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>18</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>19</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>21</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>22</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>業務実績評価書の記載内容</p>	年度	自己評価	評価委員会	備考	評価	ウエイト	評価	ウエイト	18				19				20				21				22		
年度	自己評価	評価委員会	備考																											
評価	ウエイト	評価	ウエイト																											
18																														
19																														
20																														
21																														
22																														

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																																																																																																								
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度																																																																																																						
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化後、オープンキャンパスを企画立案し、本館新築時から本格的な活動を行った。21年度の模擬講義には180名を超える参加者を得て実施し、アンケート調査でも高い評価を得ることができた。(H18-H21) ・法人化前は各メディアが主催する大学説明会に参加するだけであったが、法人化後は、教職員九州・沖縄・四国地区の高校に訪問し、九州歯科大学の歯学教育をアピールした(H18-H21) ・高校や予備校における出前講義を行ない、公立の医療系大学としての存在感をアピールした(H18-H21) ・口腔保健学科の設置認可が11月となつてしまい、募集要項を高校訪問時に提示できなかった。そこで学校訪問用として別途にパンフレットを作成し、広報活動を積極的に行った。(H21) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>: H18実績</td> <td>→</td> <td>H19実績</td> <td>→</td> <td>H20実績</td> <td>→</td> <td>H21実績</td> </tr> <tr> <td>・オープンキャンパス参加者</td> <td>: 99名</td> <td>→</td> <td>154名</td> <td>→</td> <td>204名</td> <td>→</td> <td>192名</td> </tr> <tr> <td>・参加者アンケート「4」以上</td> <td>: -</td> <td>→</td> <td>96%</td> <td>→</td> <td>90%</td> <td>→</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>・出前講義数(予備校含む)</td> <td>: 3校</td> <td>→</td> <td>2校</td> <td>→</td> <td>3校</td> <td>→</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td>・高校訪問(県内)</td> <td>: 35校</td> <td>→</td> <td>35校</td> <td>→</td> <td>48校</td> <td>→</td> <td>49校</td> </tr> <tr> <td>・高校訪問(県外)</td> <td>: 14校</td> <td>→</td> <td>16校</td> <td>→</td> <td>33校</td> <td>→</td> <td>42校</td> </tr> <tr> <td>・高校訪問良好評価</td> <td>: 100%</td> <td>→</td> <td>100%</td> <td>→</td> <td>100%</td> <td>→</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>・予備校訪問</td> <td>: 4校</td> <td>→</td> <td>17校</td> <td>→</td> <td>14校</td> <td>→</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・入試説明会(歯学科)</td> <td>: 5回</td> <td>→</td> <td>3回</td> <td>→</td> <td>9回</td> <td>→</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>・志願者数(倍率)</td> <td>: 6.7倍</td> <td>→</td> <td>6.3倍</td> <td>→</td> <td>3.5倍</td> <td>→</td> <td>4.4倍</td> </tr> <tr> <td>・受験者数(倍率)(口腔保健学科)</td> <td>: 5.4倍</td> <td>→</td> <td>5.0倍</td> <td>→</td> <td>2.9倍</td> <td>→</td> <td>3.3倍</td> </tr> <tr> <td>・志願者数(倍率)</td> <td>:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.9倍</td> </tr> <tr> <td>・受験者数(倍率)</td> <td>:</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.4倍</td> </tr> </table>		: H18実績	→	H19実績	→	H20実績	→	H21実績	・オープンキャンパス参加者	: 99名	→	154名	→	204名	→	192名	・参加者アンケート「4」以上	: -	→	96%	→	90%	→	90%	・出前講義数(予備校含む)	: 3校	→	2校	→	3校	→	1校	・高校訪問(県内)	: 35校	→	35校	→	48校	→	49校	・高校訪問(県外)	: 14校	→	16校	→	33校	→	42校	・高校訪問良好評価	: 100%	→	100%	→	100%	→	100%	・予備校訪問	: 4校	→	17校	→	14校	→	-	・入試説明会(歯学科)	: 5回	→	3回	→	9回	→	11回	・志願者数(倍率)	: 6.7倍	→	6.3倍	→	3.5倍	→	4.4倍	・受験者数(倍率)(口腔保健学科)	: 5.4倍	→	5.0倍	→	2.9倍	→	3.3倍	・志願者数(倍率)	:						1.9倍	・受験者数(倍率)	:						1.4倍	A			中期 9
	: H18実績	→	H19実績	→	H20実績	→	H21実績																																																																																																										
・オープンキャンパス参加者	: 99名	→	154名	→	204名	→	192名																																																																																																										
・参加者アンケート「4」以上	: -	→	96%	→	90%	→	90%																																																																																																										
・出前講義数(予備校含む)	: 3校	→	2校	→	3校	→	1校																																																																																																										
・高校訪問(県内)	: 35校	→	35校	→	48校	→	49校																																																																																																										
・高校訪問(県外)	: 14校	→	16校	→	33校	→	42校																																																																																																										
・高校訪問良好評価	: 100%	→	100%	→	100%	→	100%																																																																																																										
・予備校訪問	: 4校	→	17校	→	14校	→	-																																																																																																										
・入試説明会(歯学科)	: 5回	→	3回	→	9回	→	11回																																																																																																										
・志願者数(倍率)	: 6.7倍	→	6.3倍	→	3.5倍	→	4.4倍																																																																																																										
・受験者数(倍率)(口腔保健学科)	: 5.4倍	→	5.0倍	→	2.9倍	→	3.3倍																																																																																																										
・志願者数(倍率)	:						1.9倍																																																																																																										
・受験者数(倍率)	:						1.4倍																																																																																																										
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンキャンパスの内容等を工夫し充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター掲示などして、事業広報を積極的に行う。 ・オープンキャンパス参加者数 220名以上 ・オープンキャンパス参加者アンケート 評価「4」以上80%以上 ○さまざまなメディアとりわけHPを利用して広報活動を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に参加する。 ・受験生や高校関係者に対する広報活動を充実させる。 ・本学の教育・研究・社会貢献のトピックスをメディアを用いて発信する。 ・出前講座・高校訪問・入試説明会を積極的に展開し、充実させる。 ・受験者の少ない福岡市内の高校を重点に訪問するなどして志願者増へ働きかけるとともに、引き続き受験者の傾向を分析する。 ○数値目標 <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座 2校以上 アンケート良好評価 60%以上 ・高校訪問 県内70校 県外50校 アンケート良好評価 80%以上 ・入試説明会 参加数 10回以上 アンケート良好評価 60%以上 ・歯学科 一般入試 志願倍率 5.0倍 受験倍率 5.0倍 ・歯学科 AO入試 志願倍率 5.0倍 受験倍率 3.0倍 ・口腔保健学科 一般入試 志願倍率 3.0倍 受験倍率 2.5倍 																																																																																																												
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																																																																																																															
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】																																																																																																												
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																																																																																																															
		中期目標期間評価 (自己評価)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容																																																																																																												
		18～21年度(4年間)	評価	ウェイト	評価	ウェイト																																																																																																											
		18～22年度(5年間)																																																																																																															

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期
3. 教育の質の改善	1	1-1	【平成22年度計画】 【学生・同僚による授業評価の導入】 ○教員の教育能力の検証のために、「学生による授業評価」、「同僚による授業評価」を導入した平成21年度のデータを分析し、教員にフィードバックする。 ・「学生による授業評価」および「同僚による授業評価」を教育にフィードバックする。	1	1	【平成22年度の実施状況】 ○学部長面談時に、平成21年度でデータと比較検討し、次期のシラバスへの反映あるいは具体的改善策の提出などを求めた。 ○教員に授業評価データを手渡し、低い評価の教員に対して、分野長あるいは講座長が指導するという体制を整えた。	B	学生及び同僚による授業評価をフィードバックするシステムが確立した。			15
	①学生による授業評価、同僚による授業評価を実施し、評価結果を個人業績評価に反映させる。 ②個人業績評価を実施し、評価結果の研究費配分や給与へ反映する。 ③任期制を導入する。		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+).A.B.C.D)		(決定)	【意見・コメント等】			
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価	ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容			
		18									
		19									
		20									
		21									
		22									
		1-2	【個人業績評価の研究費と給与への反映】 ○過去4年間の実施実績を踏まえ、効果的な給与反映方式を確立する。 ・教員の優れた実績評価結果に報いる本学独自の支給方式を継続する。 ・前年度実績を評価した教員に対して研究費を反映させる。	1	1	○平成20年度給与反映から導入した支給方式を継続し、評価点数に応じ対象教員65名(61%)に対し総額10,380千円の給与反映を行った。 ○平成21年度給与反映から導入した「法人・大学に特に貢献した活動を行った教員に支給する特別賞」について、22年度は「国家試験合格率10位復活に貢献した国家試験対策チーム」4名、「認証評価準備に取組んだ自己評価部会員」5名、「チュニジア医療支援10年等の社会貢献活動」2名の合計11名に授与した。 ○前年度の研究成果報告者を検証し、優れた成果を評価された教員43名について22年度の個人研究費に反映させた。	B	本学独自の給与反映方式を継続するとともに、特別賞については年度ごとに支給対象を厳選し給与に反映した。また、優れた研究活動に対しては研究費配分の配慮も行っており、計画を十分に達成している。			16
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+).A.B.C.D)		(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価	ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容			
		18									
		19									
		20									
		21									
		22									

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
	1-3【任期制の充実】 ○任期制導入後5年目となるため、教員再任審査のために学内に再任審査委員会を設置し、教員から申出書の提出を受け、定められた再任審査基準に基づき審査する。 ・「教員・再任に関する規則」に基づき、任期制教員の再任手続きを開始する。		1			○副理事長を委員長とする再任審査委員会を設置した。 ○再任審査委員会において、規則に定められた手続きに基づき再任申請を行った73名の教員について審査を行い、全員の再任を決定し理事長に報告した。 ○該当教員に通知し、再任を行った。		B	再任審査委員会において22年度末に任期を迎える教員の再任審査が完了しており、計画どおり進捗している。			17
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
				1		【平成18～21年度の実施状況概略】 ・学生による授業評価点数を個人業績評価に反映させた(H18-19) ・同僚による授業評価に関しては、H18年度は部局長による評価、H19年度は講座長による評価という異なる方法を行ない、最終的に講座長による評価法で行うことを決定した(H18-20) ・個人業績評価の結果を研究費配分や給与へ反映させる取組を行った。(H20-H21) ・任期制導入3年目に、理事会で「任期制教員再任基準」を決定し、教員に全学説明会で周知した(H20-H21) ・「同僚による授業評価」を全ての科目に本格導入して、「学生による授業評価」ととも個人業績評価に反映させた。これをH21年度の学部長面談時に、全教員に数値を示して、改善方法について意見交換した。(H21) ・「学生による授業評価」及び「同僚による授業評価」の結果を各教員に示し、次期のシラバスに反映させた。(H21) ・評価結果を給与配分に反映させるシステム「特別賞」(評価点数の総合平均点以上の者で、前年度に比べ評価点向上した教員に上乗せ支給する。)に加え、法人・大学に特に貢献した活動を実施した教員に与える特別賞を新設した。今年度は、先進医療(インプラント、歯周病)の認可に尽力した教員など6名に特別賞を授与した。(H21)				中期 10		
						【平成23年度の実施予定】 ○教員の教育能力の検証のために、「学生による授業評価」、「同僚による授業評価」を導入した平成21年度以降のデータを分析し、教員にフィードバックする。 ・「学生による授業評価」および「同僚による授業評価」を教育にフィードバックする ○過去5年間の実施実績を踏まえ、効果的な給与反映方式に確立する。 ・教員の優れた実績評価結果に報いる本学独自の支給方式を継続する。 ・前年度実績を評価した教員に対して研究費を反映させる。 ○「教員・再任に関する規則」に基づき、任期制教員の年次再任手続きを開始する。						
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		中期目標期間評価 (自己評価)	自己評価 評価	ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18～21年度(4年間)										
		18～22年度(5年間)										

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号														
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度												
2【FDの推進】 教員の資質の向上を目指して企画・内容を精選し、効率的なFDを実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価:4以上60%以上 ・個人業績評価(授業評価):B以上80%以上 ・研修会等FD活動への教員参加率100% ・他の教員も使用できる教材、学習指導法の開発:実習を中心に1年間5件以上、H23年度までに科目の80%に導入	2-1【平成22年度計画】 【FDの推進】 ○学部長のもとに設置されたFD委員会で、教育の改善に向けてFD活動を行なう。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行なう。 ・教育に関する適切なテーマを設定する。 ○数値目標 ・FD活動の教員の参加率を100%	2	【平成22年度の実施状況】 ○教育改善につながるテーマを中心に10回開催し、そのうち2回のワークショップを土曜日に行った。 ○平均98%の参加率で、10回のうち6回は参加率100%であった。	B	概ね年度計画を達成することができた。	11	18	(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)					中期 ↓ 変更	年度	データ 番号	中期	年度							
								【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】													
								【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																
								年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価 委員会	ウエイト						業務実績評価書の記載内容						
								18																
								19																
								20																
								21																
								22																
										1	【平成18~21年度の実施状況概略】 ・学部長を中心としたFD部会のもと、学生の教育に関する諸問題に力点を置いたテーマを設定し、FDを年に10回開催した。 ・21年度は学生に関わる諸問題を中心に10回のFD活動を行い、そのうち6回の参加率は100%に達した。10回平均しても98%の参加率が得られた。また、休日に2回のFDワークショップ(6月14日、12月19日)を開催し、教育手法についての情報を提供し、教育へのフィードバックを図った。 ○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21実績 ・参加率100%の達成 : 77% → 100% → 100%(WSのみ) 98%							B					中期 1 1	
			【平成23年度の実施予定】 ・学部長のもとに設置されたFD委員会で、教育の改善に向けてFD活動を行なう。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行なう。 ・教育に関する適切なテーマを設定する。 ○数値目標 ・FD活動の教員の参加率 100%																					
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)					(決定)	【意見・コメント等】		中期 ↓ 変更	年度	データ 番号	中期	年度												
【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)																								
【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																								
中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	ウエイト	評価 委員会	ウエイト	業務実績評価書の記載内容																			
18~21年度(4年間)																								
18~22年度(5年間)																								

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
4. 学生への支援	1【学習相談・助言・支援の組織的対応】 学生にITアカウントを与え、学習についての相談や教育・教務関連情報の連絡に使用する。	1-1 【平成22年度計画】 ○学内ネットによる学習相談や教育・教務関連情報連絡システムを普及させる。 ・学内ネットを活用した新たな学生福利厚生活動を開始する。 ・学生ポータルを活用した授業を段階的に増加させる。 ・学生が修学できる「自習室」の利用日を土曜日曜日に拡大し、利用時間を22時までとする取組を継続する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○学生サポート体制として、「なんでも相談室」活動を充実させた。(学生相談件数は30件程度) ○「学生意見箱」(学生意見6件)で出された意見を教職員で構成する部会で検討し、ホームページを通じて改善策を周知した。 ○312講義室を6年生専用の自習室とし、9時から22時まで開放した。 ○健康管理室活動の結果、定期健康診断受診率が96.4%に上昇した。		A			19		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)					(決定)	【意見・コメント等】				
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容				
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
				1	【平成18～21年度の実施状況概略】 ・学内ネットを活用した学生支援活動を開始し、その運用を年度毎に改善してきた。21年度は、授業プリントを配付するシステムの設計を行った。(H18-21) ・カウンセリングや健康管理室での活動を充実させ、学生の身体面・精神面のサポート体制を強化してきた。21年度は定期健康診断受診率向上など学生の健康意識が高まった。(H18-21) ・「学生意見箱」や「何でも相談室」を設置し、学生の意見を取り入れる制度を導入した。21年度からは、出された意見を教職員で構成する部会で検討し、ホームページを通じて改善策を周知した。(H19-21) ・学生ポータルを活用した授業が3つ増加(3→6)した。(H21) ・図書館の利用については、休日の開館や利用時間の延長等で学生の利用者が大幅に増え、学生の満足度も上昇した。(H21) ・講義室の管理システム改善し、放課後に学生の自習室として5室開放した。(H21)		A			中期 1 2		
					【平成23年度の実施予定】 ○学内ネットによる学習相談や教育・教務関連情報連絡システムを普及させる。 ・学内ネットを活用した新たな学生福利厚生活動を開始する。 ・学生が修学できる「自習室」の利用日を土曜日曜日に拡大し、利用時間を22時までとする取組を継続する。							
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)												
【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)					(決定)	【意見・コメント等】						
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)												
中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
18～21年度(4年間)												
18～22年度(5年間)												

中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号												
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度										
2【就職先の開拓及び求人情報の提供など就職支援の充実】 ①卒業・研修後の就職支援体制(リクルートシステム)を確立する。 ②就職先の調査・開拓 ○達成目標 ・システム利用者の就職率 100% ・病院・施設等訪問数 30件以上	2-1【平成22年度計画】 ○就職支援体制を充実する。 ・新学科(口腔保健学科)開設を契機に、新たなリクルートシステムを構築する。 ○就職先の開拓及び求人情報の提供 ・病院・施設・企業等へ訪問し、求人情報の提供を得るとともに本学の学生を宣伝する。年間30箇所以上 ・法人の役員等が中心となって、地元経済界の団体や近隣の医師会・歯科医師会に訪問し、PRする。	1	1	【平成22年度の実施状況】 ○口腔保健学科の教員と事務局職員による就職支援会議を設置し、口腔学科就職支援について先進大学調査を実施した。 ○就職支援会議を5回開催し、就職支援計画を策定した。 Ⅰ 就職支援の基本的考え方 Ⅱ 支援体制(組織) Ⅲ 計画スケジュール Ⅳ 就職支援方法 Ⅴ 就職支援内容について ○学生支援として、口腔保健学科生を対象にキャリアデザインセミナー(外部講師)を実施した。			A		口腔保健学科生を対象にした就職支援体制を1年目からスタートさせることができた。	19	20											
				(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																		
				【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)										(決定)		【意見・コメント等】						
				【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																		
				年度 評価	自己評価 評価	ウエイト								評価 ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
				18																		
				19																		
				20																		
				21																		
				22																		
		1	1	【平成18～21年度の実施状況概略】 ・法人化後、学内ネットを活用した求人情報検索システムの構築などにより、歯科医師募集情報が簡便に行えるように改善した(H18-20) ・システム利用の就職率 100%(臨床研修医) ・大学内ホームページで就職先を検索できるリクルートシステムを、口腔保健学科における4年次生が卒業するH25年度には活用できる予定で設計を終了した。(H21) ・新たに設置した口腔保健学科に関する事項をホームページに加え、リニューアルした。(H21)			B				中期 1 3											
				【平成23年度の実施予定】 ○就職支援体制を充実する。 ・口腔保健学科のリクルートシステムを構築する。 ○就職先の開拓及び求人情報の提供 ・病院・施設・企業等へ訪問し、求人情報の提供を得るとともに本学の学生を宣伝する。年間30箇所以上 ・法人の役員等が中心となって、地元経済界の団体や近隣の医師会・歯科医師会に訪問し、PRする。																		
				(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																		
				【自己評価の修正の有無】 無・有(A+・A・B・C・D)										(決定)		【意見・コメント等】						
				【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																		
				中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	ウエイト								評価 ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
				18～21年度(4年間)																		
				18～22年度(5年間)																		
				ウエイト総数										中期	22年度							
														14	24							
項目数計									中期	22年度												

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

- 3 : 歯科教育コアカリキュラムに沿った教育システムの充実を重点目標と位置づけ、新しい臨床基礎実習をより実践的かつ有効なものにする。
- 6-3 : 平成21年度実施の国家試験の合格率は向上したものの、大学全体としてトップクラスを目指すことを重点目標とする。
- 7-2 : 平成21年度入試からAO入試の経験を生かし平成22年度入試をより充実させ、歯科医師として適正な人材の確保を目指す。
- 11 : 平成21年度、FDプログラムを充実させ、教員の意識と教育手法の向上を重点目標とする。

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期

教育に関する特記事項(平成22年度)

〇121年度に於て初等、中等、高等、大学入試の成績向上に力を注ぎ、新卒生〇.〇〇%、既卒生〇.〇〇%、総合〇.〇〇%、総合〇.〇〇%、総合〇.〇〇%の成績を挙げた。121年度が〇年度に於ては制度改正として、教員が〇年度に於て既卒生の国家試験対策を行なったことが効果として挙げた。

(評価委員会)

【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

【意見・コメント等】

教育に関する特記事項の業務実績評価書の記載内容

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 2 研究		「大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する」 九州歯科大学は、大学としての研究方針に基づき、研究者の連携や産学官連携を通じ、大学の教育と社会の発展に有用な研究を重点的に推進する。研究費については、大学の財源を効果的に配分するとともに、外部研究資金の獲得に積極的に取り組む。											
中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
1. 研究水準並びに研究成果の向上	1【大学の方針に沿った研究に対する適正な研究者の配置・研究費の配分】 ①大学の方針に基づいて、分野内あるいは枠を超えた複数分野の研究者の連携で研究を活性化する。 ②現在の画一的な学内研究費予算配分を見直し、大学運営に貢献する研究成果に応じた配分を行うとともに、その研究費の評価システムを確立する。 ○達成目標 ・研究費に占める研究成果に応じて配分する研究費の割合 30%以上	1-1	【平成22年度計画】 ○法人化後、見直しを始めた研究費配分の適正度を検証し、研究費の増額による研究成果の向上に生かす。 ・学長研究費を前年度並(学内分30,000,000円)に32%を確保し、若手教員の育成のための資金投入を行なう。 ・大学院における研究活動を促進するため、大学院生、研究生、専修生を対象とした所属分野への平成21年度に実施した研究費配付を継続する。			1	【平成22年度の実施状況】 ○研究企画書に基づいた研究費配分時に、義務付けた実績評価書を検証して、研究費配分に反映させた。 ○学長研究費の割合は32.1%となり、目標を達成した。そのうち若手研究者4名について、意欲を高めるため研究費を配分した。 ○各分野に所属する大学院生及び研究生・専修生数に応じた配分を行った。(大学院生92名→9,200千円、研究生・専修生18名→1,800千円)		A	大学として評価・検証を行い、若手研究者の育成に力を注ぐこととし、研究費を重点配分するといった組織的対応を行なった。			21
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)				(決定)		【意見・コメント等】					
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18											
		19											
		20											
		21											
		22											
					1	【平成18～21年度の実施状況概略】 ・9講座26分野の教員(研究者)の配置は、学長のリーダーシップのもと組織的に対応してきた(H18-20) ・学内研究費の画一的な配分を見直し、研究企画書に基づいて配分額を決定した(H18-20) ・H19年から研究実績報告書の提出を求め、研究費の費用対効果を検証するシステムを構築し実施運営した(H19-20) ・H21は、研究企画書に基づいた研究費配分時に、義務付けた実績評価書を検証して、研究費配分に反映させた(H21) ・学長研究費の配分に関しては、九州歯科学会での発表、市民公開講座での講演等を義務付け、地域社会への情報発信に努めた(H18-20) ・学長研究費の割合は32.1%となり、目標を上回って実施できた。そのうち若手研究者3名について、意欲を高めるために研究費を配分した。(H21) ・大学院生 84名に5万円→10万円を配分し、さらに研究生 2名、専修生 18名に対して研究費を配分した。(H21) ○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21実績 ・学長研究費配分割合 : 30% → 35% → 38% → 32%		A			中期 1 4		
						【平成23年度の実施予定】 ○研究費配分の適正度を検証し、研究費の増額による研究成果の向上に生かす。 ・学長研究費を、若手教員の育成のための資金投入を継続する。 ・大学院における研究活動を促進するため、大学院生、研究生、専修生を対象とした研究費配付を継続する。 ・歯工学連携大学院に係る研究費を増額させる。							
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)													
【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)				(決定)		【意見・コメント等】							
【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)													
中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容							
18～21年度(4年間)													
18～22年度(5年間)													

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
2	【研究の事後評価・検証システムの構築・実施】 研究活動の評価・検証システムを確立して、研究者の意識を高めるとともに、毎年、各研究者の研究活動を公表することにより情報公開を実施する。 ○達成目標 ・論文数(査読ありのもの、学術書掲載のもの) 70件(英文誌) ・学会発表(招待講演、シンポジスト招聘に限る) 10件 ・特許・実用新案権件数 2件	2-1	【平成22年度計画】 ○これまでの研究活動の評価・検証システムを実施し、研究費の配分の適正度をチェックする。 ・社会の発展と歯科技術を向上させるという意識のもとで研究活動を行う。 ・各研究者の研究活動を公表(全教員を対象とする) ○数値目標 ・論文数 80件以上(外国雑誌) ・学会発表数 20件以上(国際学会) ・特許・実用新案権件数 2件以上		1	【平成22年度の実施状況】 ○「高齢者の摂食機能の向上を目指したトレーニング法の開発」など、社会貢献と歯科医学の向上につながる研究を展開した。 ○各研究者の成果をホームページで公表した。 ○数値目標 ・論文数 90件(英文) ・学会発表数 25件(国際学会) ・特許・実用新案権件数 3件		A	前年度より数値目標を高く設定したが、すべての目標において上回る事ができた。	20	22	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
							【平成18~21年度の実施状況概略】 ・個人業績評価時に提出する付属書で、年度実績を点数化し、客観的な研究活動評価検証システムを構築し実施運営した(H18-21) ・教員(研究者)の研究業績をホームページで公表した(H19-21) ・研究実績評価において、社会への貢献と歯科医学を支える研究という視点を重視した。(H21) ○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21年度 ・論文数(英文) : 77件 → 65件 → 75件 → 81件 ・学会発表数(国際学会) : 33件 → 11件 → 15件 → 21件 ・特許出願 : 4件 → 1件 → 4件 → 5件			A		中期 1 5
							【平成23年度の実施予定】 ○これまでの研究活動の評価・検証システムを実施し、研究費の配分の適正度をチェックする。 ・社会の発展と歯科技術を向上させるという意識のもとで研究活動を行う。 ・各研究者の研究活動を公表(全教員を対象とする) ○数値目標 ・論文数 80件以上(外国雑誌) ・学会発表数 20件以上(国際学会) ・特許・実用新案権件数 2件以上					
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		中期目標期間評価 (自己計画)	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18~21年度(4年間)										
		18~22年度(5年間)										

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
3	【外部研究資金の獲得】 研究資金を積極的に獲得する。 ○達成目標 ・科研費:年間50件以上、H23年度までに60件以上 ・受託研究・共同研究・奨学寄付金:年間10件以上、H23年度までに15件以上 ・外部資金収入額 1億円	3-1	【平成22年度計画】 ○外部研究資金の増加を目指すとともに、大学として歯工学連携などを通じ組織的に研究資金獲得を推進する。 ○数値目標 ・科学研究費・年間50件以上 ・受託研究費・共同研究費・奨学寄付金(産学官連携分を除く)年間10件以上 (外部研究資金収入額 1億3千万円)		2	【平成22年度の実施状況】 ・事務局が発信する情報で2件の外部研究費を得ることができた。 ○数値目標 ・科学研究費 68件 (119,353千円) ・受託研究費・共同研究費・奨学寄付金 29件 (49,756千円) ・外部資金合計97件 (169,109千円)		A	今年度、新たに歯工学連携を通じて、科研費3件、共同研究費4件を獲得することができた。	20	23	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
				2	【平成18~21年度の実施状況概略】 ・事務局から外部資金募集情報を提供し、学内からの申請件数の増加を図った。更に、21年度はホームページを利用して細やかな情報提供に努めた。(H18-21) ○目標実績: H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21実績 ・科学研究費:46件、85,020千円 → 53件、106,440千円 → 61件、136,130千円 → 66件、111,501千円 ・委託研究費・奨学寄付金等:16件、17,774千円 → 18件、21,080千円 → 23件、23,939千円 → 23件、21,382千円		A			中期 1 6		
				【平成23年度の実施予定】 ○外部研究資金の増加を目指すとともに、大学として歯工学連携などを通じ組織的に研究資金獲得を推進する。 ○数値目標 ・科学研究費・年間50件以上 ・受託研究費・共同研究費・奨学寄付金(産学官連携分を除く)年間10件以上 (外部研究資金収入額 1億3千万円)								
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		中期目標期間評価 (自己計画)	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		18~21年度(4年間)										
		18~22年度(5年間)										

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
4	<p>【産学官連携の推進】</p> <p>歯学関連企業だけでなく、一般企業ならびに学内諸機関との交流を深め、歯学部の特長分野を生かした連携を推進する。</p> <p>○達成目標 ・産学官連携件数:年2件以上、H23年度までに10件</p>	4-1	<p>【平成22年度計画】</p> <p>○他分野にも注目される研究を展開して、福岡県内の産業に貢献する研究を展開する。 ・産学連携フェアへの積極的な参加 ・年間産学連携件数 5件以上 ・寄附講座の開設をめざしてスポンサー探しに引き続き取り組む</p>		1	<p>【平成22年度の実施状況】</p> <p>○産学連携フェアへ研究成果を出展した。(テーマ:超音波の歯科領域への応用) ○年間産学連携件数11件(新規:5件・継続:6件) ○寄附講座開設のための交渉を開始した。</p>		A	<p>昨年度の産学連携件数7件を上回る実績を得ることができた。</p>	22		24
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p>										
		<p>【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)</p>		(決定)	【意見・コメント等】							
		<p>【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)</p>										
		年度 評価	自己評価 評価	評価 ウェイト	評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
							1	A			中期 1 7	
		<p>【平成18~21年度の実施状況概略】</p> <p>・北九州4大学(九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学、九州歯科大学)間で、定期的に学長会議を開催し、産学官連携の推進について協議した(H18-21) ・北九州産学連携フェアでの出展を通じて、地域企業に歯学研究をアピールした。H21は1件の新技術を出展した。(H18-H21) ・G.U.I.(コンピュータの操作の対象が絵で表現されるシステム)による歯科ドック、口腔健康管理システムと設備管理システムの開発及び産学官連携が進み唾液の分泌量と性状を調べることのできる機器を開発した。また、寄附講座開設可能な企業に関しては、歯周病診断キットを開発する会社と交渉を継続した。(H21) ○目標実績 : H18実績 → H19実績 → H20実績 → H21実績 ・産学連携件数 : 8件 → 9件 → 6件 → 7件</p>										
		<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>○他分野にも注目される研究を展開して、福岡県内の産業に貢献する研究を展開する。 ・産学連携フェアへの積極的な参加 ・年間産学連携件数 5件以上 ・寄附講座の開設をめざしてスポンサーとの交渉を継続する。</p>										
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p>										
		<p>【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)</p>		(決定)	【意見・コメント等】							
		<p>【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)</p>										
		中期目標期間評価 (自己計画)	自己評価 評価	評価 ウェイト	評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
		18~21年度(4年間)										
		18~22年度(5年間)										
		ウェイト総数		中期	22年度							
				5	5			項目数計		中期	22年度	

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

3 : 平成22年度は、産業の創生につながる研究を展開し、研究費を獲得するよう努める。

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期

研究に関する特記事項(平成22年度)

コロナにより教員の介助費金獲得の意識が高まり、7年度予算額が109,109千円に達し、目標金額100,000千円を大幅に上回り、これを伴って研究業績も向上した。

(評価委員会)

【報告内容に関して確認した事項】

【意見・コメント等】

研究に関する特記事項の業務実績評価書の記載内容

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 3 社会 貢献		「大学の保有する人材・知識・施設等を社会のために活用する」 大学が保有する人材と歯科保健医療に関する高度な技術や情報等を活用して、開業歯科医師や歯科衛生士等を対象としたリカレント教育、診療所への歯科保健医療情報の提供などの事業を実施し、積極的な社会貢献を果たす。										
中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
1. 地域社会 への貢献及 び国際交流 に関する体 制の構築・ 実施	1【e-learningシステムを活用したリカ レント教育の充実】 g-learningシステムを使用して歯科 医師、歯科衛生士及び医療従事者 対象のリカレント教育を行う。 ○達成目標 ・利用者数:150人 ・利用者アンケート:内容に対する 満足度 50%以上	1-1	【平成22年度計画】 ○「Q-shidaiゼミ」をリカレント教育素材として用い、良質なプロ グラムを発信する。 ・「Q-shidaiゼミ」によるデモプログラム数を増やし、利用者 (一般の開業歯科医師、研修医)からのアンケートを集計す る。 ・新規にコンテンツを4コース(10番組)を追加して合計20番 組とし、デモプログラムを充実することでアクセス件数を増加さ せる。 4,000件目標 利用者数 200人 内容に対する満足度 60%以上 ・e-learningを含むリカレント教育を企画する。			1	【平成22年度の実施状況】 ○「Q-shidaiゼミ」のコンテンツ数を増やし、合計20番組とすることができた。 ○数値目標 アクセス数 4,052件 利用者数 182名 満足度調査を行なうソフトは構築したが、年度内に運用することができなかった。 ○厚生労働省科学研究「サービス事業希望者に対するe-learningによる就職支援プログラムの構 築」で、歯科衛生士を含めた介護系職種に向けて、複数のコンテンツを開発し、H23年度に公開を予 定している。		B			25
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価 評価	評価 ウェイト	備考					業務実績評価書の記載内容
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期
			2		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <p>【平成18年度】同窓会員に対して広報活動を実施した。</p> <p>【平成19年度】大学HPにQ-shidaiゼミを開設し、インターネットで「口腔と健康」及び「救急蘇生」に関する情報提供を開始した。情報処理室に嘱託職員を配置するなど体制を整えた。有償化に向けてアンケート調査を実施し、デモンストレーションバージョンが画像的にも内容的にも優れたものであるという評価を受けた。</p> <p>【平成20年度】Q-shidaiゼミについて、今年度10件の番組をデモ版として提供した。(内容:口腔ケア6本、緊急蘇生 4本)</p> <p>・利用者アクセス数 :2,746件 満足度のアンケート結果、84%の満足度の回答</p> <p>【平成21年度】歯周病・予防分野・インプラント分野を含む合計4番組のQ-shidaiゼミの収録を行った。H19年度から収録したコンテンツを合計すると14番組になり、H22年度には公開できる目処がたつた。</p> <p>・e-learningの広報Q-shidaiゼミの満足度調査を行うためのアンケートページの作成を行った。H22年度に運用開始する。</p> <p>・H20年度後半からサービスを開始し、H21年度は初めて年間を通してサービスを行った。利用者数は3,877件であった。</p> <p>・歯科衛生士のリカレント教育としても運用することを検討している。</p> <p>・満足度調査用画面の作成は終了し、H22年運用を予定している。</p>	B			中期 1 8	
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>○「Q-shidaiゼミ」をリカレント教育素材として用い、良質なプログラムを発信する。</p> <p>・「Q-shidaiゼミ」によるデモプログラム数を増やし、利用者(一般の開業歯科医師、研修医)からのアンケートを集計する。</p> <p>・新規にコンテンツを4コース(10番組)を追加して合計30番組とし、デモプログラムを充実することでアクセス件数を増加させる。 4,000件目標</p> <p>利用者数 200人 内容に対する満足度 60%以上</p> <p>・e-learningを含むリカレント教育を企画する。</p>					
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
		中期目標期間評価 (自己計画)	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		18～21年度(4年間)								
		18～22年度(5年間)								

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
2	【歯科保健医療情報の提供】 ①ホームページによる歯科保健医療情報(診療科及び診療内容など)の提供を充実させる。 ②北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院として、診療所では対応困難な歯科医療、または診療情報を提供する。 ○達成目標 ・病診連携件数:年間3,200 毎年1%増を図る。	2-1	【平成22年度計画】 ○北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院としての役割を担うために、診療所では対応困難な歯科医療や診療情報の提供を積極的に行う。 ・情報提供の一環として、病院歯科の診療内容、各種疾患の受け入れ状況、各病院への紹介方法を記載した病診連携パンフレットを新たに作成・配布する。 ・北九州・筑豊生活圏の歯科診療所に大学のホームページをとおして附属病院の新着情報を提供するとともに、病院、診療所の連携アップを図る(対前年比5%増)。 ・地元北九州市の過疎地・離島などで歯科治療・相談を実施する準備のため関係機関と打ち合わせるとともに、県内の他地域についても実施可能地区を検討する。			1	【平成22年度の実施状況】 ○近隣歯科医師会及び歯科医院向けの病診連携パンフレットを配布した。 ○診療科再編に伴い、病診連携室を設置し、機能強化を図った。 ○病診連携の範囲を大分県中津市まで拡大した。 ○病院総患者数に対して紹介状による患者数は、H21年度と比べ増加した。(H21年度:4,262件 H22年度:4,272件)患者紹介率H21年度:40.31%→平成22年度:40.53% ○過疎地・離島の歯科治療・相談については、福岡県と協議中である。		B			26
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
				1		【平成18~21年度の実施状況概略】 【平成18年度】病診連携パンフレットの作成と配付を行った。大学ホームページを作成し活用した。 【平成19年度】附属病院の主要業務範囲となる北九州・筑豊生活圏に所在する1,395の歯科診療所に、新たに作成した病診連携パンフレットを配布した。HPに紹介方法を掲載したことにより、紹介患者数が増加した。1,875件(対前年比20.5%増)。 【平成20年度】前年度と同じ歯科診療所に病診連携パンフレットを継続して配付した。病院総患者数に対して紹介状による患者数の紹介率は、40.1%に増加した。(H19年度実績:38.0%) ○病診連携件数 ・H18年度 1,640件 ・H19年度 1,875件 ・H20年度 1,959件 【平成21年度】 ・近隣歯科医師会及び歯科医院向けのリーフレットの改善を行った。 ・附属病院の診療科見直しを行っている関係上、H22年度中に予定されている診療科再編に併せて病診連携パンフレットを作成する準備を北九州・下関・山口病院歯科勤務医会とともに進めている。 ・H22年度中に予定されている診療科再編に併せ、附属病院のHPも大きく変更する予定である。 ・病院総患者数に対して紹介状による患者数は、H20年度と比べわずかであるが増加した(H20年度:4,214件、H21年度:4,262件) 患者紹介率 H20年:40.13% → H21年:40.31% ・過疎地・離島の歯科治療・相談については、北九州市と非公式に協議を行っている。		B		中期 1 9		
						【平成23年度の実施予定】 ○北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院としての役割を担うために、診療所では対応困難な歯科医療や診療情報の提供を積極的に行う。 ・情報提供の一環として、再編した診療科の診療内容、各病院への紹介方法を記載した病診連携パンフレットを作成・配布する。 ・北九州・筑豊生活圏の歯科診療所に大学のホームページをとおして附属病院の新着情報を提供するとともに、病院、診療所の連携アップを図る(対前年比5%増)。						
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
		18~21年度(4年間)										
		18~22年度(5年間)										

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
3	【研究成果の地域への発信】 ①各種イベント及び報告会を利用して地域に向けての研究成果を継続して報告していく。 ②市民公開講座による研究成果の公表を行う。 ○達成目標 ・市民公開講座受講者数 500人 ・受講者の満足度 50%以上	3-1	【平成22年度計画】 【研究成果発表】 ○地域に向けた研究成果の発表等を企画する。 ・重点配分した研究を公開するための「重点学術研究報告会」を研究者、医療従事者、一般住民に対し開催し、アンケートにより評価を受ける。 ・行政機関及び地元医師、歯科医師会に働きかけ、地域イベントへ参加し研究成果の発表機会を確保する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○「平成21年度学術研究費学長競争枠報告書」を作成し関係者へ配布した。(学内外合わせて150冊) ○市民公開講座「お口の健康とからだの健康」を開催した(5/29:参加者114名) ○小倉医師会主催の歯科医師向け講座で講演:「高齢者の歯科治療の留意点～高齢者の特性と口腔機能管理」(12/9歯科大:参加者48名、アンケートなし) ○歯工学連携事業 ・第5回講演会 外国人共同研究者による講演(6/14歯科大:参加者47名) ・第9回講演会 「転写因子による味蕾細胞の分化制御」(3/14九工大:参加者20名) ○第10回産学連携フェアに出展し、「超音波の歯科領域の応用」を発表した。		B	学術研究実績については、報告書を作成し広く関係者に公開するとともに、医療従事者や研究者等への講演を行っており、計画を達成した。			27
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
18												
19												
20												
21												
22												
3-2	【平成22年度計画】 【市民公開講座】 ○学長競争枠応募研究を精査し、市民公開講座に適正である研究成果の発表を行う。 ・学外開催する歯科公開講座で、参加地域住民のアンケートを集約し、受講者の満足度が60%以上とする。 ・北九州市内4大学法人(九州歯科大学、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学)の「4大学スクラム公開講座」として1会場で4大学講座を実施する。(120名以上) ○「地域貢献推進室」では、地域住民との対話や連携を意図する企画の取組を行う。		1	【平成22年度の実施状況】 ○市民公開講座 講演テーマ「お口の健康とからだの健康」 (5/29アイスト21で実施 参加者114名 満足度80%超) ○4大学スクラム講座 本学講演テーマ「現在の歯の治療と再生医療」 (12/5西日本総合展示場新館 参加者61名 満足度94%超) ○本学「社会貢献委員会」のもとに設置した地域貢献推進室主導で、出前講座やSSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)への協力などを行っている。 ○泉台地区等周辺自治会との懇談会への出席を行ない対話を行なっている。		B	学長競争枠応募研究の中から地域に公開できるものを厳選した結果、市民公開講座においては多くの参加者を得、満足度も目標を上回り、年度計画を十分達成した。		23		28	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
18												
19												
20												
21												
22												

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <p>【平成18年度】学長競争枠学術研究費重点配分で得られた研究成果を、市民公開講座として「学術研究報告会」を開催し報告した。参加者80名。北九州4大学スクラム講座を開催した。参加者53名。満足度80%</p> <p>【平成19年度】学長競争枠学術研究費重点配分で得られた研究成果を、前年度と同じく「学術研究報告会」を開催し報告した。参加者100余名。さらに九州歯科学会総会においても13の研究題目の研究成果を発表した。参加者約200名。「平成19年度九州歯科大学学術研究費重点配分」報告書を作成し配付した。医療系施設(100機関)および福岡県学事課と医療指導課に発送した。「4大学スクラム公開講座」を本学が主管運営して4回開催した。参加者:300名 ・受講者の「満足度」: 第1回79.4%、第2回90.0%第3回81.4%、第4回76.4%</p> <p>【平成20年度】学長競争枠学術研究費重点配分で得られた研究成果を、「平成20年度九州歯科大学学術研究費重点配分」報告書にまとめ、配布した。九州歯科学会総会で15の研究項目の研究成果を発表した。参加者120名。 ・今年度期事業として平成20年度歯工学連携キックオフシンポジウム(参加者:100名)を開催し、「歯工学連携の目指す生活の質(QOL)の向上」を刊行した。公開講座として、「変色歯への対処法」を開催した。参加者61名 ・北九州4大学スクラム講座(会場 産業医大ホール)を開催した。九州歯大担当講座では参加者44名、「受講者の満足度」:70%</p> <p>【平成21年度】 ・「平成20年度学術研究費学長競争枠報告書」を作成し、配付した。(学内外合わせて250冊) ・九州歯科学会総会(5月)で22の重点学術研究成果の発表を行った。(参加者:348名、アンケート未実施) ・歯工学連携事業として、第1回歯工学連携講演会「歯周医学の視点に立った歯周病研究の現状と今後の展望」(H21年6月九州工業大学:参加者58名)及び第2回歯工学連携講演会「さまざまな口腔粘膜疾患」(H22年1月九州工業大学:参加者50名)を行なった。 ・地域住民に向けての研究成果の発表を企画し、「歯と口の健康」(H21年6月北九州市周望学舎:参加者30名、アンケート未実施)・「咀嚼と健康」(H21年12月九州歯科大学:参加者10名、満足度100%)・「学童期の口の健康と食育」(H21年8月豊前市八尾小学校:参加者50名、アンケート実施)の講演を実施した。 ・市民公開講座として、「知ってトクする唾液のひみつ」(九州歯科大学於、10/31、参加者70名、満足度80%)及び「顕微鏡を使った歯の治療」(小倉歯科医師会館、3/10、参加者48名)を開催した。 ・4大学スクラム講座「あごの関節の不思議」(AIMビル於、11/21、満足度74%)を開催し、参加者は104名と昨年度(44名)より大幅に増加した。</p>	B					中期 20	
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>○地域に向けた研究成果の発表等を企画する。 ・重点配分した研究を公開するための「重点学術研究報告会」を研究者、医療従事者、一般住民に対し開催し、アンケートにより評価を受ける。 ・行政機関及び地元医師、歯科医師会に働きかけ、地域イベントへ参加し研究成果の発表機会を確保する。</p> <p>○学長競争枠応募研究を精査し、市民公開講座に適正である研究成果の発表を行う。 ・学外開催する歯科公開講座で、参加地域住民のアンケートを集約し、受講者の満足度が60%以上とする。 ・北九州市内4大学法人(九州歯科大学、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学)の「4大学スクラム公開講座」として1会場で4大学講座を実施する。(120名以上) ○「地域貢献推進室」では、地域住民との対話や連携を意図する企画の取組を行う。</p>							
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		中期目標期間評価 (自己計画)	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容							
		18～21年度(4年間)										
		18～22年度(5年間)										

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
4	【アジア等を主眼に置いた国際貢献の実施】 ①NGOなどの支援を受け、アジア・アフリカの発展途上国における歯科医療技術援助(口腔外科・保存・予防処置を中心として)に継続して取り組む。 ②留学生交流と海外大学との学術交流推進 ○達成目標 ・留学整数: 5人 ・学術交流件数: 国外3件、国内3件	4-1	【平成22年度計画】 【発展途上国に対するの歯科医療技術援助】 ○発展途上国に対して行っている歯科医療技術援助を継続して行う。 ・ネパール、チュニジアにおける活動を継続し、東南アジアにおける歯科医療支援活動及び口腔保健活動を検討する。 ・本学学生の国際貢献活動の促進を図る。	/	1	【平成22年度の実施状況】 ○ネパール歯科医療協会の技術援助(24次) ・夏隊(8/26~9/2) 中村特任教授一行12名、うち本学学生3名 ・冬隊(12/23~1/4) 中村特任教授一行18名、うち本学学生2名 ○毎年行っているチュニジア歯科医療技術援助については、エジプトに端を発したチュニジアでのいわゆる「ジャスミン革命」の影響で中止を余儀なくされた。 ○第23次ネパール歯科医療協力に関する報告書を作成し、教員に配布した。 ○東南アジアにおける歯科医療支援については、新たな対象地域の検討を行っているところである。	/	B	チュニジアでの歯科医療技術協力は、北アフリカ地域の争乱の影響で実施できなかったが、ネパールでの歯科医療技術支援については本学学生も参加し年2回実施しており、概ね計画を達成した。	24 25	/	29	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)				(決定)		【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18	/	/	/	/							
		19											
		20											
		21											
		22											
4		4-2	【平成22年度計画】 【留学生交流と海外大学との学術交流推進】 ○現在在籍する留学生をとおして国際交流及び海外大学との学術交流を推進する。 ・学内留学生に対して、イベント等の情報提供を行う。 ・学術交流協定締結大学と今後の活動について、意見交換を行う。 ○数値目標 ・外国人留学生数 5名 ・学術交流 2大学	/	1	【平成22年度の実施状況】 ○留学生は、学部留学生1名(台湾1名)・大学院留学生2名(台湾2名)を受け入れ、「留学生の集い」等のイベントや奨学金の情報提供を行なった。 ・外国人留学生 3名 ・学術交流大学 2大学	/	B	年度計画を十分に実施している。	25	/	30	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)				(決定)		【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18	/	/	/	/							
		19											
		20											
		21											
		22											

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <p>【平成18年度】国際貢献の実績の公開は学会での講演、著書で実施した。ホームページなどで、ネパールやチュニジアでの活動を具体的に紹介した。留学生交流及び海外との学術交流推進事業では、交流件数2件(韓国:延世大学、中国:同済大学)。留学生数5人(学部2名、大学院3名)。</p> <p>【平成19年度】発展途上国に対するの歯科医療技術援助に関する取組は、ネパール(第21次)及びチュニジア(第9次)へ本学教員を派遣し、医療支援・技術援助を行った。ネパールでは、虫歯予防・口腔保健専門家養成事業を推進し、新たに現地人による専門家養成プロジェクトを立ち上げた。</p> <p>本学「大学案内」にネパール・チュニジア事業へ参加した本学教員・学生の声を掲載し、これ等の活動に対する本学の支援姿勢をアピールした。又、チュニジア報告会を学内で開催し、ネパール報告書を学内配布した。</p> <p>ネパールでの調査研究に本学学生が2名参加した。またチュニジアでの歯科医療に参加し、歯科保健に貢献した。</p> <p>海外研究者による学内講習会を開催し、学術交流を図った。(3回開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生は、学部留学生2名(韓国)、大学院留学生3名(中国1名、中華民国1名、ネパール1名)を受け入れている。 <p>【平成20年度】発展途上国に対するの歯科医療技術援助に関する取組は以下のとおりおこなった。</p> <p>ネパール歯科医療協会の技術援助隊(22次)、第1回目 中村准教授一行5名、第2回目 中村准教授一行7名。協力隊には学生4名が同行した。</p> <p>またチュニジア歯科医療技術援助、2高橋教授他5名。</p> <p>ネパール歯科医療支援事業20周年記念式典を20年11月に大学講堂において、300名余の参加者で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人の教員を、3名(中国2名韓国1名)、留学生は、学部留学生2名(韓国2名)と大学院留学生3名(中国1名、台湾2名)を受け入れている。 福田理事長が、学術交流締結大学(中国:同済大学)を訪問し、今後の交流拡大について協議した。 <p>学術交流大学:国外 2大学(韓国:延世大学、中国:同済大学)</p> <p>【平成21年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ネパール歯科医療協会の技術援助隊(23次)、夏隊 8/15～8/25中村特任教授一行9名、うち本学学生3名、冬隊 12/24～1/5中村特任教授一行18名、うち本学学生1名が同行した。また、チュニジア歯科医療技術援助隊 2/12～2/20高橋教授他1名(第11次)が同行した。また報告会及び研修会を次のとおり開催した。 <p>[報告会]第23次ネパール歯科医療協力隊夏隊プロジェクト報告会(九州歯科大学、9/15、参加者9名)</p> <p>第11次チュニジア歯科医療技術援助報告会開催(九州歯科大学、3/18、参加者20名)</p> <p>[研修会]ネパール歯科医療協力22次隊公式報告書研修会(九州歯科大学、5/25、参加者10名)</p> <p>ネパール歯科医療協力23次隊夏隊プロジェクト研修会(九州歯科大学、7/31、参加者10名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東南アジアでの新たな活動拠点として、ベトナム社会主義共和国医療援助および学術調査、研究活動(土生助教)を通じて東南アジアでの活動を開始した。(12/18～12/27) ○学生は、学部留学生2名(台湾1名、韓国1名)・大学院留学生3名(台湾2名、中国1名)を受け入れ、「留学生の集い」等のイベントや奨学金の情報提供を行った。 ○中国の同済大学、韓国の延世大学との学術交流協定の継続について審議中である。 ・外国人留学生 5名 ・学術交流大学 2大学 	B			中期 2 1		
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発展途上国に対して行っている歯科医療技術援助を継続して行う。 ・ネパール、チュニジアにおける活動を継続し、東南アジアにおける歯科医療支援活動及び口腔保健活動を検討する。 ・本学学生の国際貢献活動の促進を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○現在在籍する留学生をとおして国際交流及び海外大学との学術交流を推進する。 ・学内留学生に対して、イベント等の情報提供を行う。 ・学術交流協定締結大学と今後の活動について、意見交換を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○数値目標 ・外国人留学生数 5名 ・学術交流 2大学 						
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
		18～21年度(4年間)									
		18～22年度(5年間)									

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等		自己評価			通し番号	
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度	中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
5	【地域住民の健康増進のための保健プログラムの構築と活用】 ①福岡県民を対象とした口腔保健及び全身の健康に関する保健プログラム・データベースの構築。 ②健診事業、データ入力及び集計に関して、一括して行う体制を構築する。 ○達成目標 ・健診事業・データ入力・集計受託実績:市町村などからの受託件数5件	5-1	【平成22年度計画】 ○福岡県民を対象とした、地域住民の健康増進のための健診プログラムを継続して展開する。 ・モデル地区の地域診断を実施し必要な情報を得るとともに最新調査データを分析・評価した項目を広報紙「福岡8020ニュース(No4)」に掲載発行し、啓発活動を行う。 ・予防歯科分野で健診事業、データ集計を引き続き行う。 ・平成21年度から始めた病院における「お口の健康セミナー」を継続する。	1	1	【平成22年度の実施状況】 ○県内市町村から集めた健診データを分析した結果を「福岡8020ニュース(No4)」に掲載し、関係機関(県内歯科医師会会員等)に配付し、地域住民へ啓発活動を行った。 ○予防歯科分野での健診事業は、みやこ町(227名)と西南女学院(313名)で行っており、データ集計を行っている。 ○「お口の健康セミナー」の一環として、H22年9月に北九州市と共催で地元住民のための市民公開講座に講師を派遣した。 ○病診連携室を中心に地域住民の要望等を把握するため講演会を準備している。	B				31	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
				1	1	【平成18~21年度の実施状況概略】 【平成18年度】モデル地区をみやこ町とし住民検診を実施した。 【平成19年度】みやこ町から町民歯科健診事業を受託した。さらに、平成10年から行ってきた県内9市町村の健診データを分析した。その結果の一部を「福岡8020ニュース」第1号として発行し、県内歯科医師会員に対し配布し、地域住民への啓発活動に利用することとした。データ分析により、本プログラムの有効性が明らかとなった。 【平成20年度】県内市町村から集めた健診データを分析した結果を「福岡8020ニュース(No2)」に掲載し、前年と同様関係機関(県内歯科医師会会員等)に配布し、地域住民へ啓発活動を行った。 【平成21年度】 ・県内市町村から集めた健診データを分析した結果を「福岡8020ニュース(No3)」に掲載し、関係機関(県内歯科医師会会員等)に配布し、地域住民へ啓発活動を行った。 ・予防歯科分野での健診事業は、みやこ町(206名)と西南女学院(320名)等で行っており、データ集計を行っている。また、H22年3月には、地元住民のための健康講演会に講師派遣した。 ○健診受託件数 ・H18年度 1件(みやこ町は3町:勝山町、犀川町、豊津町が合併したもの) ・H19年度 2件 ・H20年度 3件 ・H21年度 3件		B			中期 2 2	
						【平成23年度の実施予定】 ○福岡県民を対象とした、地域住民の健康増進のための健診プログラムを継続して展開する。 ・モデル地区の地域診断を実施し必要な情報を得るとともに最新調査データを分析・評価した項目を、広報誌「福岡8020ニュース(No5)」に掲載発行し啓発活動を行う。 ・予防歯科分野で健診事業、データ集計を引き続き行う。						
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容						
		18~21年度(4年間)										
		18~22年度(5年間)										
		ウェイト総数		中期	22年度			項目数計		中期	22年度	
				6	7							

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由		中期	年度

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期

社会貢献に関する特記事項(平成22年度)

① なし

(評価委員会)

【報告内容に関して確認した事項】

【意見・コメント等】

社会貢献に関する特記事項の業務実績評価書の記載内容

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 4 業務運営		「理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、全学的な教育研究目標を策定し、大学の有する資源を最大限に活用して、主体的・自律的な大学運営を確立する。 理事長を補佐するため、事務局による支援体制を強化する。										
中期計画		平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
1. 運営体制の改善	1【予算や人員の効果的な配分と事務局機能の強化】 ①理事長が中心となって策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員の効果的な配分を実施する。 ②大学全体の自己点検・評価に基づき、必要に応じて教育研究組織の見直しと再編成を行う。 ③事務局機能を強化する。	1-1	【平成22年度計画】 【予算、人員の効果的な配分】 ○大学が策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員を費用対効果を考え効率的な配分を実施する。 ・前年の実績を踏まえて、本大学の教育研究目標に従った効率的な予算配分を実施する。 ・学術研究費学長競争枠の予算の一部を若手研究者のための研究費に充て、研究意欲を喚起する。 ・大学運営のための「大学運営会議」で十分に議論し、有効な組織の設置等を考察する。 ・次期中期計画策定準備のために、有効な人員配置を行う。		1	【平成22年度の実施状況】 ○附属病院において、更新計画に基づく中央材料室滅菌装置等の設備・機器の更新や診療科再編のための改修工事を行った。目的積立金 69,251千円 ○法改正に合わせて解剖棟のホルマリン対策を強化したほか、動物実験室の改修を行った。目的積立金 76,333千円 ○若手研究者の研究費として、学長競争枠予算の32%(2,500千円)を4名に配分した。 ○大学運営会議の役割を引き継いだ拡大役員会において、23年度の口腔保健学科の組織や人員体制、これに合わせた大学本館の改修等を検討した。 ○次期中期計画策定のため、これからの大学運営を担う教員と事務局職員から選抜したプロジェクトチームを組織した。		B	目的積立金を有効に活用し、教育研究活動に則した施設の改修、設備・機器の導入を行ったほか、次期中期計画策定のための人員体制を整備するなど、概ね年度計画を達成できた。			32
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容				
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
1. 運営体制の改善	1-2【事務局機能の強化】 ○機動的・弾力的な組織運営を行うための事務局体制を検討し、整備する。 ・事務局体制の整備・機能強化を図るため、給与支給事務等の外部委託の可能性を具体的に検討し、実行していく。 ・決算・会計事務について、平成21年度から専門業者に業務委託しているが、内容等の見直しを行う。 ・病院事務について、専門的知識や豊富な経験を有している委託職員の見直しを行い、経費節減を行う。 ・病院における診療費未収金の回収のために、1万円以上の滞納者に少額訴訟の手続きを行う。 ・事務局職員のノウハウの継続性を維持するため、プロパ化の検討と嘱託職員の配置見直しを行う。		2	【平成22年度の実施状況】 ○事務局の給与・旅費支給事務について、事務処理改善・人件費削減のための外部委託に向けた検討を行い、23年度中途から試行することとした。 ○決算・会計事務については、専門性を持った自前の職員の育成を図ることとし、23年度6月で外部委託を終了することとした。 ○病院事務については、業務の見直しを行い委託職員を削減するなど、経費の削減を行った。(△2,545千円) ○病院における1万円以上の滞納者に対する訴訟は引き続き行っている。(少額訴訟1件、簡易裁判所訴訟1件) ○専門性を有する事務職員を育成するため、24年度以降のプロパー職員採用計画を作成するとともに嘱託事務職員の配置見直しを行った。		B	事務局機能の強化に向けて、外部人材の活用や専門性を有する職員の採用など県派遣職員に依存しない体制づくりに努めており、病院事務でも合理化を進め、計画どおり進捗している。			33		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容				
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期
			2		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <p>【18年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化にともなう業務量の増加に対応するため、病院事務及び財務管理班において年度中途で嘱託職員を雇用した。 <p>【19年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長競争枠研究費を増額配分した。 ・企画書の評価に基づく研究費配分や個人業績評価に基づく人件費配分を行った。 ・昨年度に引き続き嘱託職員を積極的に採用した。 ・法人役員と事務局職員の意見交換会を定期的に開催し、事務局機能の円滑化を図った。 <p>【20年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師国家試験の合格率向上を目指し、目的積立金を活用し支援システムを導入した。 ・科学研究費の学長競争枠予算の10%を若手研究者に配分した。 ・嘱託職員を積極的に活用することにより、事務局職員の時間外勤務を大きく縮減することができた。 ・事務局の事務分担を見直し、事務処理の効率化と円滑化を図った。 ・会計事務及び決算事務の効率化を図るためアウトソーシングを決定した。 ・附属病院に苦情処理及び未収金回収に従事する専任の嘱託職員を配置した。 <p>【21年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の教育目標である歯科医師の育成することを達成する歯科医師国家試験の合格向上のために、「国家試験対策用オンライン試験・自習システム」(国家試験の過去・模擬問題などをCBT形式で回答でき、学生の達成度の把握・成績分析にも利用できる。)を導入した。ソフト購入費7,100千円 ・若手研究者の研究費として、昨年どおり学長競争枠予算の10%(3,000千円)を3名に配分した。 ・県立三大学事務担当者会議(21年度:2回開催)で、各大学の課題である給与・旅費事務の外部委託について協議検討した。 ・他事務の省力化等について意見交換した。 ・効率的な事務運営を行うため決算・会計事務の業務委託を実施することで県派遣職員の定数を見直し削減した。 ・業務委託した決算・会計事務が、円滑に執行されて事務処理の短縮と正確性が実証された。併せて時間外の縮減につながる事ができた。 ・毎月実施している役付会で、病院事務部と大学事務局の情報等の共有を行った。 ・病院事務の強化のため、委託職員を2名増員した。 ・昨年に引き続き病院苦情処理及び診療費未払金回収のための専門嘱託職員を配置した。 	B			中期 2 3	
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【予算、人員の効果的配分】</p> <p>○大学が策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員を費用対効果を考え効率的な配分を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年の実績を踏まえて、本大学の教育研究目標に従った効率的な予算配分の実施する。 ・学術研究費学長競争枠の予算の一部を若手研究者のための研究費に充て、研究意欲を喚起する。 ・大学事務局の適正な人数及び組織強化のためのプロパー職員の人数について検討する。 ・次期中期計画策定準備のための検討組織及びプロジェクトチームの運営を行う。 <p>【事務局機能の強化】</p> <p>○機動的・弾力的な組織運営を行うための事務局体制を検討し、整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局体制の整備・機能強化を図るため、給与支給事務等の外部委託を実施する。 ・決算・会計事務について、専門業者への業務委託を見直し、専門職員を配置する。 ・病院における診療費未収金の回収のために、1万円以上の滞納者に少額訴訟の手続きを行う。 ・事務局職員のノウハウの継続性を維持するため、プロパー職員の採用・配置計画を検討し、採用試験を行う。 					
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)								
		中期目標期間評価 (暫定計画)	自己評価 評価 ウェイト	評価委員会 評価 ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		18～21年度(4年間)								
		18～22年度(5年間)								

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
2	【安全管理体制の充実】 ①学生や教員の体験・実習・災害時等の安全対策を実施する。 ②ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。 ③院内感染及び医療事故に関する講習会を開催する。	2-1	【平成22年度計画】 【安全対策の実施】 ○全学挙げて、安全対策を実施するとともに、職員の健康対策を考える。 ・安全防災委員会で、防災計画等を策定する。 ・防災訓練を実施することで、学内の危機管理意識を向上させる。 ・職員の健康管理維持や家族の団欒形成などの時間を作るため、ノー残業デーの推進を図る。 ・過労による労務災害(メンタル・ヘルス等)や自殺の防止のための研修等を実施する。 ・健康管理室の主導で、救命救急に関する講習会を開催する。 ・平成21年度から実施しているキャンパス禁煙の指示と同時に始めた大学周辺の清掃活動を教職員と学生で引き続き行う。			1	【平成22年度の実施状況】 ○防災計画の策定には至っていないが、引き続き附属病院で防災訓練を実施し緊急時の対応等危機管理意識の向上に努めた。 ○事務職員を中心に週1日のノー残業デーを実施している。 ○衛生委員会委員が「心とからだの健康セミナー」に参加し、今後義務化される職場でのメンタルヘルス対策等について衛生委員会で説明し意識啓発を行った。 ○救急救命に関する講義を引き続き体育の時間に実施した。 ○敷地内全面禁煙の一環として、教職員と学生による大学周辺の吸い殻等の清掃活動を月2回実施した。		B			34
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	評価 ウェイト	評価 ウェイト	備考		業務実績評価書の記載内容				
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
		2-2	【平成22年度計画】 【事故防止対策の実施】 ○ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。 ・報告内容をリスクマネジメント部会及び医療事故予防対策委員会で分析し、結果を職員へ周知する。(毎月1回) ・院内感染部会を、毎月1回開催して感染情報等の事故報告を検討し、職員へ周知するとともに毎月1回の院内巡視を行う。 ・院内感染及び医療事故に関する講習会を2回以上開催する。 ・新入生のオリエンテーションの際に、学内全面禁煙の徹底及び大麻等の薬物の取扱いと新型インフルエンザの予防について注意喚起する。			1	【平成22年度の実施状況】 ○ヒヤリハット報告を事故防止に繋げるため、医療事故予防対策委員会や関係部会を開催し、結果を職員へ周知したほか、月1回の院内巡視も行った。 ・リスクマネジメント部会 毎月1回 年間12回 ・院内感染対策部会 毎月1回 年間12回 ・医療事故予防対策委員会 毎月1回 年間12回 ○院内感染及び医療事故に関する講習会を2回実施した。(7/10、1/27) ○新入生オリエンテーションにおいて、薬物の危険性や取り扱いについて警察に講話を依頼し、新型インフルエンザに関しても引き続き注意喚起を行った。		B			35
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	評価 ウェイト	評価 ウェイト	備考		業務実績評価書の記載内容				
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
		1	1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <p>【18年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で起こりうる学生の事故防止対策を検討した。 ・リスクマネジメント部会及び医療事故予防対策委員会において、ヒヤリハット事象の報告を徹底し、その実績により県歯科医師会から受託事業の指定を受けた。 <p>【19年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で起こりうる学生の事故防止対策として事例集を作成した。 ・消防署の指導のもとAEDの操作講習会を開催した。 ・事故防止の部会及び委員会で報告されたヒヤリハット事例について職員に周知徹底した。 ・院内感染対策部会でメンバーが毎月1回院内巡視し、きめ細やかな指摘や注意を行った。 <p>【20年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災計画の母体となる「安全防止委員会」設置要綱を作成した。 ・新入生オリエンテーションにおいて救命救急に関する事項を詳しく説明した。 ・リスクマネジメント部会、医療事故予防対策委員会及び院内感染委員会を毎月1回開催し、ヒヤリハットや事故防止策について職員に周知した。 ・院内感染及び医療事故防止に関する講習会を例年通り2回開催した。 <p>【21年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全防災委員会を設置し、防火防災の取組を協議した。併せて消防法の改正による自衛消防組織を作ることを確認した。 ・新型インフルエンザ対策として委員会を設置し、発病した場合のマニュアルを作成し、大学内各所にパンフレットを配布し、HPで全職員に注意喚起した。 ・ノー残業日を推進した結果として、時間外勤務の時間数が減少した。(対前年比900時間減少) ・救命救急に関する講義を、体育時間に行った。 ・解剖棟のホルマリン対策として、実態調査を行い課題を把握した。 ・防災訓練は、H21年11月11日に実施し、AEDの講習会は、H22年3月24日に実施した。 ・事故防止のために、リスクマネジメント部会・院内感染部会・医療事故予防対策委員会を毎月1回開催し、結果を職員へ周知した。 ・院内感染及び医療事故に関する講習会を年2回実施した。 ・新入生オリエンテーションの際に、大麻・薬物の取扱いについて警察に講話を依頼し周知した。 <p>○事故防止のために、計画どおり委員会を開催し、結果を職員へ周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント部会 毎月：1回 年間12回 ・院内感染部会 毎月：1回 年間12回 ・医療事故予防対策委員会 毎月：1回 年間12回 <p>○院内感染及び医療事故に関する講習会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内巡視は、7診療科7人体制で実施している。 ・講習会 年2回：7月10日、12月7日 <p>○新入生オリエンテーションの際に、大麻・薬物の取扱いについて警察に講話を依頼し周知した。</p> <p>○新型インフルエンザの予防については、全教職員及び学生に対してメール及びチラシを作成し、注意喚起を行った。</p>	B			中期 2 4		
			1			<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【安全対策の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学挙げて、安全対策を実施するとともに、職員の健康対策を考える。 ・安全防災委員会で、防災計画等を策定する。 ・防災訓練を実施することで、学内の危機管理意識を向上させる。 ・職員の健康管理維持や家族の団欒形成などの時間を作るため、ノー残業デーの推進を図る。 ・過労による労務災害(メンタル・ヘルス等)や自殺の防止のための研修等を実施する。 ・健康管理室の主導で、救命救急に関する講習会を開催する。 ・キャンパス禁煙の指示と同時に始めた大学周辺の清掃活動を教職員と学生で引き続き行う。 <p>【事故防止対策の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。 ・報告内容をリスクマネジメント部会及び医療事故予防対策委員会で分析し、結果を職員へ周知する。(毎月1回) ・院内感染対策部会を、毎月1回開催して感染情報等の事故報告を検討し、職員へ周知するとともに毎月1回の院内巡視を行う。 ・院内感染対策及び医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を1年に2回以上開催する。 ・新入生のオリエンテーションの際に、キャンパス禁煙の徹底及び大麻等の薬物の禁止と新型インフルエンザの予防について注意喚起する。 					
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p>									
		<p>【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)</p>	(決定)		<p>【意見・コメント等】</p>						
		<p>【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)</p>									
		<p>中期目標期間評価 (自己計画)</p>	<p>自己評価 評価 ウェイト</p>	<p>評価委員会 評価 ウェイト</p>	<p>業務実績評価書の記載内容</p>						

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号				
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度		
2. 人事の適正化	【教員個人業績評価制度の導入】 ①教員個人業績評価システムを導入する。 ②教員給与に個人業績評価を反映させる。	1-1	【平成22年度計画】 ○教員個人業績評価システムのブラッシュアップに取り組む。 ・教員による大学運営への積極的に参加を促すための制度の評価対象項目を引き続き拡充する。 ・低評価者に対する指導・支援等の対応を充実させる。		1	【平成22年度の実施状況】 ○個人業績評価システムの評価対象項目や評価方法の見直しを行ったほか、法人・大学に特に貢献した教員に対する特別賞については昨年度と違った観点から厳選し実施した。 ○個人業績評価の低評価者に対し、分野長の立会のもとに学部長が面談・指導した。		B	評価項目や評価方法の見直し、特別賞の継続及び学部長面談・指導により、個人業績評価システムが有効に機能しており、計画を十分に達成した。			36		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)												
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)												
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
		18												
		19												
		20												
		21												
		22												
					1	【平成18～21年度の実施状況概略】 【18年度】 ・個人業績評価制度を導入し、全教職員に周知徹底した。 ・評価結果を次年度から給与に反映させることを決定した。 【19年度】 ・評価に対する不服申立制度を導入するとともに、同僚による授業評価を全面試行した。 ・予め全教職員に評価基準と反映率を説明し、給与への反映を実施した。 【20年度】 ・昨年度に試行した同僚による授業評価を本格導入し、制度をブラッシュアップした。 ・評価項目に大学運営に関する各種委員会での活動を加えたことで、教職員の積極的な参加を促すことができた。 ・本学独自の評価基準として、特に業績の改善が見られた場合に「特別賞」を上乗せ支給した。 【21年度】 ・法人・大学に特に貢献した活動を実施した教員に与える特別賞を創設した。 ・個人業績評価が上位か業績が改善した教員に給与を上乗せして支給する制度を継続・改善した。 ・個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導措置を行った。 ・学部長面談において、教授に対して大学運営への積極的参加を促した。 ・個人業績評価による任期制の再任審査の審査基準を全学説明会で公表した。					B			中期 2 5
						【平成23年度の実施予定】 ○教員個人業績評価システムのブラッシュアップに取り組む。 ・教員による大学運営への積極的に参加を促すための制度の評価対象項目を引き続き拡充する。 ・低評価者に対する指導・支援等の対応を充実させる。								
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)														
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】									
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)														
中期目標期間評価 (暫定計画)	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容								
18～21年度(4年間)														
18～22年度(5年間)														

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号										
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度								
2	【任期制の導入】 ①全教員を対象とした任期制を導入する。	2-1 【平成22年度計画】 ○任期制導入後5年目となるため、教員再任審査のために学内に再任審査委員会を設置し、教員から申出書の提出を受け、定められた再任審査基準に基づき審査する。 ・「教員・再任に関する規則」に基づき、任期制教員の再任手続きを開始する。	1	1	【平成22年度の実施状況】 ○副理事長を委員長とする再任審査委員会を設置した。 ○再任審査委員会において、規則に定められた手続きに基づき再任申請を行った73名の教員について審査を行い、全員の再任を決定し理事長に報告した。 ○該当教員に再任通知を行った。	B	再任審査委員会において22年度末に任期を迎える教員の再任審査が完了しており、計画どおり進捗した。	28	37										
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																	
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)						【意見・コメント等】								
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																	
		年度評価			自己評価 評価						ウェイト	評価 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		18																	
		19																	
		20																	
		21																	
		22																	
			1	1	【平成18～21年度の実施状況概略】 【18年度】 ・4月に任期制を導入し、年度末においては116名中109名が任期制に移行した。(同意率94.0%) 【19年度】 ・期末においての定年退職予定教員を除く対象者115名に対する同意率は94.3%となった。 【20年度】 ・「任期制教員再任基準」を理事会の議を経て決定し、全学説明会及びホームページで全教職員に周知した。 【21年度】 ・7名の月給制承継教員に対して根気強く意向照会を行ったが、同意されなかった。しかしながら新たに採用された教員のすべては任期制である。任期制率 約94%	B			中期 2 6										
					【平成23年度の実施予定】 【任期制の導入】 ○任期制導入後6年目となるため、教員再任審査のために学内に再任審査委員会を設置し、教員から申出書の提出を受け、定められた再任審査基準に基づき審査する。 ・「教員・再任に関する規則」に基づき、任期制教員の再任手続きを開始する。														
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																			
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)			(決定)	【意見・コメント等】															
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																			
中期目標期間評価 (自己計画)	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容														
18～21年度(4年間)																			
18～22年度(5年間)																			
ウェイト総数			中期 5	22年度 7	項目数計					中期	22年度								

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

1-2 : 法人運営、大学運営を支える事務局については、効率的かつ機動的に対応できる体制を整備する必要があり、外部人材の活用や専門性を持ったプロパー職員の採用等による事務局機能の強化が急務である。

業務運営に関する特記事項(平成22年度)	
なし	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】	【意見・コメント等】

業務運営に関する特記事項の業務実績評価書の記載内容

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由		中期	年度

項目別の状況(年度計画項目)

<p>中期目標 5 財務</p> <p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」</p> <p>大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行なう。 収入については、重要な自己財源である学生納付金のあり方について検討するとともに、外部研究資金の獲得に努め、社会人向け教育サービスや資産の有効活用などによる新たな収入の確保にも積極的に取り組む。 経費については、人員配置や業務内容の見直しを推進し、その抑制を図る。 附属病院については、医療サービスの向上と経営の改善に積極的に取り組む。</p>											
項目	実施事項	平成22年度計画		計画の実施状況等		自己評価			通し番号		
		中期	年度	中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度		
1. 自己収入の増加	1【学生納付金の確保とあり方検討】 ①学生納付金のあり方を検討する。 ②未納金に対する取り組みを強化する。 ○達成目標 ・収納率:100%	1-1【平成22年度計画】 ○学生納付金の確保のため授業料等未納金に対する取り組みを強化する ・未納者に対して、呼び出し連絡(学内掲示)し、事情を把握したうえで、納付指導を徹底する。 ○数値目標 ・教員・事務局職員で連絡会を作り情報の共有し、督促業務を行い収納率100%をめざし未収金の解消を推進する。	1	1	【平成22年度の実施状況】 ○財務管理班及び学生支援班において授業料等未納学生9名(授業料未納5名、延滞利息分未納4名)の情報共有を行い、未納者に対しては呼び出し、納付相談、保護者への督促等を行った。その結果、8名(授業料5名、延滞利息3名)については、年度中に納入された。 ○この結果、22年度末の収納率は99.8%であった。	B	29	38			
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価	ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容			
18											
19											
20											
21											
22											
			1	1	【平成18~21年度の実施状況概略】 ・未納者の呼び出しや面談により、18年度から20年度の収納率は下記のとおりで順調に成果を収めている。(20年度は専修生1名に滞納が発生したため100%に至らなかった。) ・19年度から教員と事務局職員で構成する「連絡会」を設置し、情報の共有化に努めている。 ・21年度は、景気の低迷が続く現況で、承認されなかった減免申請者1名とその他2名の3名の未納者に対して、粘り強く保護者に督促を行い、納付指導を行った結果、1名については新年度に納入された。 ○数値目標 18年度 収納率: 99.8% 19年度 収納率:100.0% 20年度 収納率: 99.1% 21年度 収納率: 99.6%	B		中期 2 7			
					【平成23年度の実施予定】 ○学生納付金の確保のため授業料等未納金に対する取り組みを強化する ・未納者に対して、呼び出し連絡(学内掲示)し、事情を把握したうえで、納付指導を徹底する。 ○数値目標 ・教員・事務局職員で連絡会を作り情報の共有し、督促業務を行い収納率100%をめざし未収金の解消を推進する。						
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】								
【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
中期目標期間評価 (前次計画)	自己評価 評価	ウエイト	評価	ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
18~21年度(4年間)											
18~22年度(5年間)											

項目	実施事項	平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
		中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
2	【診療報酬の確保】 ①患者紹介率の向上を図る。 ②人間ドック、歯科ドックなど検診分野での収入増を図る。 ○達成目標 ・患者紹介率:30%以上	2-1	【平成22年度計画】 【患者紹介率の向上】 ○基本診療料の施設基準で患者紹介率20%以上で実施件数30件以上の条件を満たすため、患者紹介率35%以上を維持する。 ・近隣の医師会及び歯科医師会を訪問し、各会員へ患者紹介の依頼を行う。 ・紹介方法についてホームページを充実させる。 ○数値目標 ・紹介患者数 4,500件 ・診療報酬額 11億8千万円			1	【平成22年度の実施状況】 ○患者紹介率のH22年度実績は、新患者総数10,540件に対し紹介患者数4,272件で紹介率40.5%であった。(H21実績40.3%) ○近隣歯科医師会及び歯科医師向けリーフレットを改善し配布するとともに、患者紹介を依頼した。 ○診療報酬額は目標とほぼ同額の11億8千1百万円となった。 ○診療科再編を行ったが一部準備中の診療科・室があり、その準備が整い次第、附属病院のHPも変更する予定である。		B	近隣歯科医師に対しリーフレット等により引き続き患者紹介を依頼し、患者紹介率は目標及び前年度を上回った。ホームページについては診療科再編がすべて完了後に充実する予定であり、年度計画を概ね達成した。			39
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】						
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)													
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容							
18													
19													
20													
21													
22													
2	【検診分野での収入増】 ○歯科ドックをPRすることや、人間ドックなど検診分野で1,700千円(年間合計額)の収入を目標とする。 ・人間ドックのほか特定検診その他の検診(科目)事業を増加させる。 ・歯科ドックや歯科検診事業を依頼する企業を増大させる。 ・平成21年度からの学内全面禁煙を機に、禁煙促進に取り組む。	2-2	【平成22年度計画】 【検診分野での収入増】 ○歯科ドックについては、PRに努めているが実績はなかった。 ○人間ドックのH22実績 559千円(H21実績 362千円) ○歯科検診のH22実績 495千円(H21実績 383千円) ○大腸がん、前立腺がん、肝炎ウイルス、胃がん検診のH22実績 57千円(H21実績49千円) ○特定健診のH22実績 361千円(H21実績410千円) ○歯科検診については、依頼企業等が増え、件数が前年度比22%増加した。 ○22年度検診実績 合計1,472千円 【実施状況】 H 21 H22 ・人間ドック 10件 17件 ・特定健診 51件 44件 ・北九州市 11件 11件 ・歯科検診 149件 182件 ○キャンパス内全面禁煙に併せた附属病院内科の禁煙外来を続けて実施。(H22実績4名)			1		B	検診収入全体は目標額に到らなかったが、人間ドックや歯科検診の件数は21年度を上回っており、概ね計画を達成できたと考える。			40	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】						
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)													
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容							
18													
19													
20													
21													
22													

項目	実施事項	平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の医師会や歯科医院への働きかけにより、患者紹介率は年々増加している。21年度にはリーフレットの改善を行なった。 18年度 患者紹介率: 33.4% 19年度 患者紹介率: 38.0% 20年度 患者紹介率: 40.1% 21年度 患者紹介率: 40.3% ・病院長が公的共済組合等を訪問し働きかけを行った結果、人間ドックの収入は増加し、また歯科検診に係る収入も増加傾向にある。 18年度 人間ドック: 361,435円 19年度 人間ドック: 722,085円 20年度 人間ドック: 722,715円 歯科検診: 828,806円 21年度 人間ドック: 361,200円 歯科検診: 925,430円 ・20年度には、念願であった大腸ガン、前立腺ガン、肝炎ウイルス及び胃ガンの特定検診をスタートさせた。 20年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診: 37,820円 特定健診: 210,934円 21年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診: 48,090円 特定健診: 409,272円 ・21年度には、キャンパス内禁煙について敷地内に看板の設置を行ない、附属病院内に禁煙外来を設置した。 	B				中期 2 8	
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【患者紹介率の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本診療料の施設基準で患者紹介率20%以上で実施件数(手術件数)30件以上の条件を満たすため、患者紹介率35%以上を維持する。 ・設置した病診連携室に患者紹介を一元化し、効率化・適正化を図る。 ・近隣の医師会及び歯科医師会を訪問し、各会員へ患者紹介の依頼を行う。 ・紹介方法についてホームページを充実させる。 <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者数 4,500件 ・診療報酬額 11.8億円 <p>【検診分野での収入増】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歯科ドックをPRすることや、検診分野で1,000千円(年間合計額)の収入を目標とする。 ・特定検診その他の検診(科目)事業を増加させる。 ・歯科ドックや歯科検診事業を依頼する企業を増大させる。 ・平成21年度からの学内全面禁煙を機に、禁煙促進に取り組む。 						
<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p>											
【自己評価の修正の有無】			(決定)		【意見・コメント等】						
無・有(A(+)・A・B・C・D)											
【ウェイトの修正の有無】											
無・有(2→1・1→2)											
中期目標期間評価 (自己計画)		自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容					
		評価	ウェイト	評価	ウェイト						
18～21年度(4年間)											
18～22年度(5年間)											

項目	実施事項	平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
		中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
3	【施設整備の有効活用等】 ①共同研究室、教室等の施設設備を有効活用し収入増を図る。 ②e-learningによる収入増を図る。 ○達成目標 ・e-learningによる収入額:2,400万円	3-1	【平成22年度計画】 ○大学の共同研究室、会議室、講堂棟の施設設備を積極的に宣伝するとともに、他大学、企業等に有料で提供し、有効活用及び収入増を図る。 ・動物実験施設を改築し、有効利用ができるように検討する。 ○リカレント教育をネットワークを利用した有償事業として、「Q-shidaiゼミ」を行う体制を整備する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○会議室や講堂等の大学施設の使用料収入は、昨年度に引き続き1千万円を超えた。 ○解剖棟にある動物実験施設については、有効活用を図るための施設改修に着手した。 ○「Q-shidaiゼミ」については、デモプログラムの充実と利用者数増に努めている。		B	大学施設の有効活用により連続して1千万円以上の貸付収入を得ていることや動物実験施設の改修に着手したことから、年度計画を概ね達成している。			41
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
					1	【平成18~21年度の実施状況概略】 ・18年度に「学外者施設利用要綱」を策定し、20年度には解剖棟の施設設備を利用した場合の料金規程を整備した結果、21年度は17件、1,840千円の収益を得た。また、各種イベントや市民参加の行事で、交通の利便性の高い本大学の施設の提供・活用をPRした。 ・リカレント教育e-learningとして「Q-shidaiゼミ」を構築すべく、19年度から情報処理室に嘱託職員を置いて体制を整え第一期としてコンテンツの充実と利用者数増に努めている。 ○施設利用料 18年度 8,051千円 19年度 12,921千円 20年度 13,016千円 21年度 12,400千円		B			中期 2 9	
						【平成23年度の実施予定】 ○大学の共同研究室、会議室、講堂棟の施設設備を積極的に宣伝するとともに、他大学、企業等に有料で提供し、有効活用及び収入増を図る。 ・動物実験施設を改築し、有効利用ができるように検討する。 ○リカレント教育をネットワークを利用した有償事業として、「Q-shidaiゼミ」を行う体制を整備する。						
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		中期目標期間評価 (自己評価)	自己評価 評価	評価委員会 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18~21年度(4年間)										
		18~22年度(5年間)										

項目	実施事項	平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期
4	【外部研究資金の増収】 研究の活性化のために、科学研究費補助金、各種研究開発事業助成金、企業からの共同研究費、受託研究費、奨学寄附金の獲得増及び知的財産を利用した収入増を図る。 ○達成目標 ・外部研究資金収入: 1億円	4-1 【平成22年度計画】 【外部研究資金等の増加及び知的財産を利用した収入増】 ○外部研究資金等の増加を目指すとともに、産学連携の視点に立って研究費獲得を推進する。 ○知的財産を利用した収入増を図る体制を構築する。 ・北九州産業学術推進機構(北九州TLO)を活用し、特許の申請および運用を促進する。 ・埋もれている知的財産をいかに活用できるか考えて、重点的に企業との連携に積極的に取り組む。 ○治験(薬の有効性、安全性を調べる臨床試験)受託の増加を目指す。 ○数値目標 外部研究資金等収入 1億3千万円		2	【平成22年度の実施状況】 ○外部研究資金獲得結果は以下のとおりとなり、前年度を37,000千円程度上回った。 H22年度実績 97件 169,109千円 うち共同研究1件 1,500千円 受託研究4件 2,501千円 (H21年度実績 89件 132,883千円 うち企業連携・共同研究1件 1,500千円 受託研究4件 3,550千円) ○厚労省科研費(学術振興科研費外)獲得1件 ○知的財産については、北九州TLOを活用した特許申請はなく、収入額も前年度を下回った。 ○知的財産使用収入額 H22年度 8.8千円 (H21年度 62千円) ○治験受託料実績額 H22年度 1件 12,806千円 H21年度 1件 5,126千円	中期 ↓ 変更	B	知的財産の活用実績は伸びなかったものの、外部研究資金等の獲得額は目標及び前年度実績を上回っており、概ね年度計画を達成した。	20	42
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】					
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容				
18										
19										
20										
21										
22										

項目	実施事項	平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
		中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
2. 経費の抑制	1【人件費の抑制】 ①設置基準を踏まえ、人員配置を見直す。 ②業務内容や手順を洗い直し、適切に人員を配置する。 ○達成目標 ・人件費削減率:法人化前の5%以上	1-1	【平成22年度計画】 ○今年度運営交付金算定上の人件費(退職金を除く)1,875百万円以内の運用に徹する。 ・教員数については、教員の質維持を厳守し、退職者補充と組織再編を進め、厳しい要員管理を継続する。 ・事務職員については、増加する業務への円滑処理を優先させ中期的展望に効率化策を検討し、外部パワーの積極登用も含め適正要員配置に努める。		2	【平成22年度の実施状況】 ○人件費(退職金除く)は1,815百万円であり、目標の範囲内に抑えることができた。 ○新設の口腔保健学科に係る教員10名の配置について、現任教員の活用を図った結果、全体の教員数は実質4名の増にとどまった。 ○口腔保健学科に係る事務局業務拡大にともない職員1名の増員を実現した。 ○業務の熟達度の向上や業務手順の見直し等により時間外勤務を抑制できた。(対前年比268万円減) H22年度:19,040千円 H21年度:21,719千円 ○事務職員の中期的展望に立った効率化策として、給与支給事務の外部人材の活用や決算・会計の見直し及び専門性を持ったプロパー職員の採用を決めた。			B			43	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
		18											
		19											
		20											
		21											
		22											
					1	【平成18~21年度の実施状況概略】 ・教員については、退職者の不補充や分野廃止にともなう現員数での配置換えなど大学全体のバランスを考慮した適正配置に努め、設置基準を遵守した人事管理を行い、また事務職員については病院事務において外部委託化を進めるなど、人件費の抑制に努めた。 ・事務部門の業務内容の見直しや外部委託化などにより、19年度と20年度を比べると時間外勤務手当は7,053千円の削減となった。さらに、21年度は業務内容を精査し、時間外勤務手当を抑制できた。 ・20年度には、専門的な知識を要する法人の決算・会計事務について、外部委託化の検討を進めた。 ・21年度は、会計・決算事務の外部委託を行なうとともに、給与・旅費事務のアウトソーシングの手段方法を他大学の辞令を参考に検討した。 ・人件費(H17年度基準額)に対する増減額 18年度 19年度 20年度 21年度 △98,464千円 △79,460千円 △181,282千円 △235,640千円 △5.0% △4.0% △6.6% △11.9% ・時間外勤務手当 19年度 32,473千円 20年度 25,420千円 21年度 21,719千円 前年比 △7,053千円 前年比 △3,701千円			B		中期 3 1		
						【平成23年度の実施予定】 ○今年度運営交付金算定上の人件費(退職金を除く)1,933百万円以内の運用に徹する。 ・教員数については、教員の質維持を厳守し、退職者補充と新組織の編成を進め、厳しい要員管理を継続する。 ・事務職員については、増加する業務への円滑処理を優先させ中期的展望に効率化策を検討し、外部パワーの積極登用も含め適正要員配置に努める。							
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)													
【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】								
【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)													
中期目標期間評価 (自己計画)	自己評価 評価	ウエイト	評価 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容								
18~21年度(4年間)													
18~22年度(5年間)													

項目	実施事項	平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
		中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
2	【職員の意識改革、経費の節減】 ①附属病院において、診療科ごとに患者数、収支を把握し、これを職員ひとり一人に周知することにより、経営に関する意識改革を進める。 ②光熱水費、コピー経費、その他の経費の節約を全教員へ周知徹底する。 ③九州工業大学、産業医科大学との学術交流協定に基づき設備を相互活用することにより、設備の有効利用、整備費の削減を図る。 ○達成目標 ・光熱水費、コピー経費、その他の経費の削減率：4%	2-1	【平成22年度計画】 【職員の意識改革】 ○教員、職員すべてに対し、経営に関する意識改革を推進する。 ・大学幹部と班長以上の大学運営会議等を通じて、大学運営のあり方や問題点を協議することで認識の共有化や職員のやる気を起こす。 ・理事長自らが中期計画、或いは法人職員の心構えなどを全学説明会や新任の教職員のオリエンテーションなどを通じて周知に取組み意識改革に努める。		1	【平成22年度の実施状況】 ○大学運営会議を年度当初で発展的に解散し、役員会を再編成して大学幹部と事務局職員の意思疎通や相互理解を深めるようにした。 ○理事長自らが理事会決議事項や外部評価の結果等を伝える全学説明会を5回開催し、法人職員としての経営感覚や問題意識を植え付けた。(参加者:461名) ○新任教員及び新任事務職員を対象とした学長自らのオリエンテーションをそれぞれ開催し、法人職員としての意識付けを行った。		B	大学運営会議等の場を通じて大学幹部と事務局職員の意思疎通の改善を図ったこと、全学説明会や新任教職員オリエンテーションにおいて法人職員としての意識付けを行ったことから、目標を概ね達成することができた。			44
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価	ウェイト	備考					業務実績評価書の記載内容
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										
2	【経費の節減】 ○職員のコスト意識向上に努め、経費削減への取組を引き続き進める。 ・節電として、夏期・冬期の設定温度の適正化に努め、こまめに設備機器の電源OFFし、省エネ策を講じる。 ・事務用品の使用(コピー用紙等)について、効率性を考えて行う。(両面コピーの奨励) ・各種委託契約の効率性を重視して再検討し、契約を行う。 ・附属病院においては、急増する診療材料費への対応を、分析して抑制策を継続して行う。 ・法人経費実態を繰り返し全学説明会で示し、教職員の経費に対する認識を高める。 ・病院機器の更新は、平成21年度に作成した計画(3年間)に従い、優先度の高いものから決定し経費執行する。 ○数値目標 ・光熱水費 対前年比 △1% ・コピー用紙 対前年比 △5%	2-2	【平成22年度計画】 【経費の節減】 ○職員のコスト意識向上に努め、経費削減への取組を引き続き進める。 ・節電として、夏期・冬期の設定温度の適正化に努め、こまめに設備機器の電源OFFし、省エネ策を講じる。 ・事務用品の使用(コピー用紙等)について、効率性を考えて行う。(両面コピーの奨励) ・各種委託契約の効率性を重視して再検討し、契約を行う。 ・附属病院においては、急増する診療材料費への対応を、分析して抑制策を継続して行う。 ・法人経費実態を繰り返し全学説明会で示し、教職員の経費に対する認識を高める。 ・病院機器の更新は、平成21年度に作成した計画(3年間)に従い、優先度の高いものから決定し経費執行する。 ○数値目標 ・光熱水費 対前年比 △1% ・コピー用紙 対前年比 △5%		1	【平成22年度の実施状況】 ○事務室等の不要な照明の消灯など節電対策、省エネ対策を講じたが、夏場の外気温が異常に高く、特に入院施設のある附属病院において電気使用量が伸びるなど、光熱水費は前年比4%の増加となった。 H22年度 205,442千円 H21年度 197,189千円 ○コピー用紙の使用経費は、両面コピーやメールの活用により対前年比11%減となり目標を達成できた。 ○全学説明会において学長自ら法人の経営状況を教職員に説明し、コスト意識を醸成した。 ○附属病院の診療材料費については引き続きS.P.Dにより抑制策を講じている。 ○各種委託契約については、契約方法の見直し等を行ったが、契約金額の削減には到っていない。 ○附属病院の機器更新は、目的積立金等を活用し更新計画に基づき優先度の高いものから実施した。		B	光熱水費は夏場の異常気象により目標を達成できなかったが、コピー用紙に係る経費は削減目標を達成し、附属病院の診療材料費の抑制や優先度の高い機器更新を実施するなど、大学・病院をあげて経費削減に取り組んでおり、概ね計画を達成した。		31	45
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
		年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価	ウェイト	備考					業務実績評価書の記載内容
		18										
		19										
		20										
		21										
		22										

項目	実施事項	平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号										
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度								
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度、理事長が主催する全学説明会や新任教職員のオリエンテーションにおいて、法人の経費構造等説明し法人職員としての経営感覚の醸成を図った。 ・19年度から役員と事務局役職者との意見交換会を定期的に行い、法人運営に関する共通認識を持つように努めた。 ・附属病院において、診療科別の実績を病院運営部会へ報告し、病院経営に関する意識の向上に努めるとともに、診療材料費についてはSPDシステムの委託により見直しを図った。 ・20年度には、法人としての服務管理を効率的かつ集中的に行うため、出勤管理システムを導入し試験運用を開始した。 ・21年度には、10月から「九州歯科大学運営会議」を新設し、大学幹部と事務局幹部で、より効果的な運営手法等について協議した。また、光熱水費は、大学・病院全体で省エネに努め、事務室等の不要な照明の消灯、パソコン等の稼働時間以外のスイッチオフを強く奨励し、約16,000千円の減少となった。 ・規定勤務時間外の消灯やエレベーター稼働時間の制限などの経費節減策により、光熱水費の伸び率が12.4%から5.8%に減少した。 <p>○光熱水費</p> <table border="1"> <tr><td>18年度</td><td>179,103千円</td></tr> <tr><td>19年度</td><td>201,355千円</td></tr> <tr><td>20年度</td><td>212,815千円</td></tr> <tr><td>21年度</td><td>197,189千円</td></tr> </table>	18年度	179,103千円	19年度	201,355千円	20年度	212,815千円	21年度	197,189千円	B				中期 3 2	
18年度	179,103千円																		
19年度	201,355千円																		
20年度	212,815千円																		
21年度	197,189千円																		
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【職員の意識改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員、職員すべてに対し、経営に関する意識改革を推進する。 ・大学幹部と事務局部長以上の拡大役員会を通じて、問題点を協議することで認識の共有化や職員のやる気をおこす。 ・理事長自らが中期計画、或いは法人職員の心構えなどを全学説明会や新任の教職員のオリエンテーションなどを通じて周知に取組み意識改革に努める。 <p>【経費の節減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員のコスト意識向上に努め、経費削減への取組を引き続き進める。 ・節電として、夏期・冬期の設定温度の適正化に努め、こまめに設備機器の電源OFFし、省エネ策を講じる。 ・事務用品の使用(コピー用紙等)について、効率性を考えて行う。(両面コピーの奨励) ・附属病院においては、急増する診療材料費への対応を、分析して抑制策を継続して行う。 ・法人経費実態を繰り返し全学説明会で示し、教職員の経費に対する認識を高める。 ・病院機器の更新は、平成21年度に作成した計画(3年間)に従い、優先度の高いものから決定し経費執行する。 <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費 対前年比 △1% ・コピー用紙 対前年比 △5% 														
<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)</p>																			
【自己評価の修正の有無】			(決定)	【意見・コメント等】															
無・有(A(+)・A・B・C・D)																			
【ウェイトの修正の有無】																			
無・有(2→1・1→2)																			
中期目標期間評価 (自次計画)		自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容													
		評価	ウェイト	評価	ウェイト														
18～21年度(4年間)																			
18～22年度(5年間)																			

項目	実施事項	平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																				
		中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度																		
3. 附属病院 経営の改善	1 【地域医療サービスの向上の推進】 ① 摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ② 歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療・病診連携・病病連携の体制を充実させる。 ③ 患者ニーズを把握するために、地域住民との懇談会を設置する。 ④ ボランティアの受け入れを行う。 ⑤ 口腔健診業務への参入を図る。 ○ 達成目標 ・ 患者紹介率: 30%以上 ・ 患者アンケート*教職員の対応やサービスに関する満足度(普通より上のレベル) 70%	1-1	【平成22年度計画】 【摂食・嚥下リハビリテーションの実施】 ○ 摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ・ 一般外来や訪問診療の高齢者に対して、摂食・嚥下リハビリテーションの意識を患者並びに患者家族に説明し、患者満足度の向上に努める。 ・ 入院患者及び手術後の患者に対して、口腔ケアを実施することで、患者のQOL(人が充実感や満足感を持って日常生活をおくることができる。)向上を図る。(目標数値: 300件 800,000円) ・ 嚥下機能診断を的確に診断する機器類を整備する。 ○ 数値目標 ・ 患者アンケートによる満足度 75%以上		1	【平成22年度の実施状況】 ○ 病棟入院患者および他病院入院患者に対して口腔ケア指導を積極的に行ない、H22年度実績はのべ468名であった。(H21年度実績: 492名) ○ 摂食・嚥下リハビリテーションに関する説明文書の配布や嚥下障害のある場合の丁寧な説明など、引き続き患者満足度の向上に努めた。 ○ 摂食機能リハビリテーション科(口腔環境科)においては、術前の口腔ケア(歯周処置を含む)や摂食機能療法、病棟での口腔ケアを合わせて、H22年度の収入は699,100円であった。(H21年度: 764,300円) 患者紹介率は45.2%。 ○ 患者アンケート(手渡し法)による満足度は88%であり、昨年度(84%)を上回った。(実績数19名) ○ 嚥下機能診断機器は21年度に完了した。		B	入院患者等に対する口腔ケア件数は昨年度を少し下回ったものの、目標を大きく上回り、また患者満足度も目標及び前年度上回っており、計画を十分に達成した。			46																		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項) 【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D) (決定) 【意見・コメント等】 【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・ 1→2)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>自己評価</th> <th>評価委員会</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>18</td><td></td><td></td><td rowspan="5">業務実績評価書の記載内容</td></tr> <tr><td>19</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>21</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>22</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		年度	自己評価	評価委員会	備考	評価	評価	ウェイト	18			業務実績評価書の記載内容	19			20			21			22				
年度	自己評価	評価委員会	備考																											
評価	評価	ウェイト																												
18			業務実績評価書の記載内容																											
19																														
20																														
21																														
22																														
		1-2	【平成22年度計画】 【訪問診療体制の導入】 ○ 歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療、病診連携、病病連携の体制を構築する。 ・ 社会的要請の増大を受けて、新規連携病院の開拓と増加を図る。 ・ 訪問診療件数の把握と件数(昨年実績178件連携病院2件から1件に減少した結果)の増加を図る。		1	【平成22年度の実施状況】 ○ 北九州八幡東病院に加え、新たに新日鐵八幡記念病院、JR門司病院と連携し、訪問診療を定期的に実施した。 ○ 訪問診療の実績 ・ 件数 204件 (H21年度 178件) → 14.6%増 ・ 収益 1,225,140円 (H21年度890,320円) → 37.6%増		B	訪問診療の連携病院を新たに開拓し3医療機関となったこと、これにより訪問件数、収益ともに増加したことから、年度計画を十分に達成した。			47																		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項) 【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A・ B・ C・ D) (決定) 【意見・コメント等】 【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・ 1→2)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>自己評価</th> <th>評価委員会</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>18</td><td></td><td></td><td rowspan="5">業務実績評価書の記載内容</td></tr> <tr><td>19</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>21</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>22</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		年度	自己評価	評価委員会	備考	評価	評価	ウェイト	18			業務実績評価書の記載内容	19			20			21			22				
年度	自己評価	評価委員会	備考																											
評価	評価	ウェイト																												
18			業務実績評価書の記載内容																											
19																														
20																														
21																														
22																														

項目	実施事項	平成22年度計画		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
		1-3	【平成22年度計画】 【地域住民との懇談会】 ○地域住民との懇談会を開催し、患者のニーズを聴取する。 ・各種講演会等を開催することを契機に、周辺の地域住民から病院への要望や歯の悩みなどを聴取する。	1	【平成22年度の実施状況】 ○地域貢献推進室及び病診連携室が連携し、地域住民の要望等を把握するための講演会の準備を進めた。 ○同窓会との共催、附属病院主催で22年度もロビーコンサートを開催し、コンサート終了後に入院患者や地域住民との懇談を行った。 ○21年度に続いて理事長が泉台校区自治会との懇談会に出席し、地域の方々と意見交換を行った。		B	地域住民の要望等をつかむため、次回講演会を検討しているほか、近隣住民等に開放するロビーコンサートの実施、理事長と近隣自治会との懇談を実施するなど、ほぼ計画どおり進捗している。			48
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)		(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)									
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
18											
19											
20											
21											
22											
		1-5	【平成22年度計画】 【健診業務】 ○歯科健診センターによる口腔健診業務を推進する。 ・前年度実施分の継続実施に努め、さらに新規開拓を引き続き検討する。 ・患者アンケートを実施して、教職員の対応やサービスが70%以上の満足度を得ることで向上を目指す。	1	【平成22年度の実施状況】 ○外部健診業務については、昨年度に引き続きみやこ町(227名)、西南女学院(313名)、口腔保健協会(2名)において実施した。 ○財団法人日本予防医学研究会との間で健診業務について検討を続けており、県下24地区での健診業務に参入することを計画している。 ○受診者アンケートの結果は満足度98.3%(実績数540名)となり、目標及び昨年度を大きく上回った。		B	健診業務の新規開拓は実現していないが、受診者数は増加し、満足度も向上しており、年度計画を十分達成している。			49
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)		(決定)	【意見・コメント等】						
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)									
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
18											
19											
20											
21											
22											

項目	実施事項	平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19年度から入院患者に対する口腔ケアの指導体制を強化し、摂食・嚥下リハビリテーションに関する説明文書の配付や、嚥下障害のある場合には嚥下内視鏡検査の画像などの提示・説明を行なうなど、患者の満足度の向上に努めた。 述べ患者数 19年度: 220名 20年度: 275名 21年度: 492名 収入額 19年度: 407千円 20年度: 729千円 21年度: 764千円 ○患者紹介率 18年度 19年度 20年度 21年度 2,420件 3,828件(58%増) 4,420件(15%増) 4,262件(4%減) ・訪問診療については、19年度から2病院と連携して定期的を実施した。 件数は19年度195件→20年度381件→21年度178件 ・患者ニーズを把握するための地域住民との懇談会の実施には至らなかったものの、19年度に4大学スクラム講座を聴講した地域住民の歯科相談に応じたほか、病院への要望や歯の悩みを聞くロビーコンサートを実施した。21年度には、附属病院主催で「第1回お口の健康セミナー」を開催し、非常に好評であったため次年度から定期的に行なうこととした。 ・21年度は、泉台校区町づくり推進協議会との連携を開始し、理事長が泉台校区自治会との懇談会に出席し、今後の連携方法について検討した。 ・口腔健診業務は、みやこ町と西南女学院に加え20年度から口腔保健協会でも実施した。 	A				中期 3 3	
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【摂食・嚥下リハビリテーションの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○摂食機能リハビリテーション科を中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。 ・一般外来や訪問診療の高齢者に対して、摂食・嚥下リハビリテーションの意識を患者並びに患者家族に説明し、患者満足度の向上に努める。 ・入院患者及び手術後の患者に対して、口腔ケアを実施することで、患者のQOL(人が充実感や満足感を持って日常生活をおくることができること)向上を図る。 (目標数値:300件 400,000円)保険点数に反映されない口腔ケアとリハビリテーションを行っているため減額となる。 ・嚥下機能診断を的確に診断する機器類を整備する。 ○数値目標 ・患者アンケートによる満足度 75%以上 <p>【訪問診療体制の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療、病診連携、病病連携の体制を構築する。 ・社会的要請の増大を受けて、新規連携病院の開拓と増加を図る。 ・当病院中心の訪問歯科診療体制から、地域の歯科医院との連携を主体とした専門的支援体制への移行を図る。 <p>【地域住民との懇談会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域住民との懇談会等を開催し、患者のニーズを聴取する。 ・各種講演会等を開催することを契機に、周辺の地域住民から病院への要望や歯の悩みなどを聴取する。 <p>【健診業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歯科健診センターを病診連携室に附属させ、口腔健診業務を推進する。 ・前年度実施分の継続実施に努め、さらに新規開拓を引き続き検討する。 						

項目	実施事項	平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番号	通し番号		
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由		中期	年度	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)		(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)										
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容					
		18～21年度(4年間)										
		18～22年度(5年間)										

項目	実施事項	平成22年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号	
		中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期
2	【経営の効率化を推進するためのシステムの構築】 ①教職員の適正配置を行い、専門外来(口腔外科や歯周病科など)における先進医療を進める。 ②治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化を図るクリティカル・パス(標準的な臨床指針)を導入する。 ③附属病院の薬剤業務を院外処方にし、薬剤師は入院患者への薬剤情報提供を専門に行い、入院患者へのサービスを図る。 ④附属病院のホームページを利用した診療に関するサービスを提供する。 ⑤歯科材料を効率的に流通させるシステムを導入し、材料費の削減を図る。 ○達成目標 ・患者アンケート:教職員の対応やサービスに関する満足度(普通より上のレベル) 70% ・医療材料費率:18年度中に、適正な医療材料を明確にして数値目標の設定を行なう。	2-1	【平成22年度計画】 【高度先進医療の推進】 ○ニーズの高い診療科へ教職員を適正配置し、専門外来における先進医療を進める。 ・平成20年度に2件承認された先進医療の認定取得を更に進める(申請予定 3件)	/	1	【平成22年度の実施状況】 ○H20年度に承認された2件の先進医療(歯周病及びインプラント)を進めている。 ・(歯周病)歯周炎による骨欠損再建手術 ・(インプラント)植え込みによる義歯作成 ○新規先進医療申請に向け、保存科及び義歯科において症例を収集中である。	/	B	承認済みの先進医療2件に係る診療を進めており、新規申請については関係分野で準備を進めているところであり、概ね計画を達成していると考えます。	/	50
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18	/	/							
		19									
		20									
		21									
		22									
2		2-2	【平成22年度計画】 【クリティカル・パス】 ○完成した共通マニュアルを実施することで、どのような問題点が存在するか考察するとともに改良・改善する。	/	1	【平成22年度の実施状況】 ○前年度に完成した各科共通のクリティカルパスを各診療科で利用し、問題点等について考察を進めている。	/	B	完成したクリティカルパスの問題点等の考察を続けているところであり、年度計画を達成している。	/	51
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】					
		【ウエイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウエイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
		18	/	/							
		19									
		20									
		21									
		22									

項目	実施事項	平成22年度計画		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
		2-4	【平成22年度計画】 【ホームページの活用】 ○附属病院のホームページを利用した診療に関する充実した情報サービスの提供を検討する。 ・見やすく操作しやすいホームページに改善する。 ・地域中核病院の治療内容を詳細に掲載する。 ・今年度10月の診療科の再編を契機として、わかりやすい病院組織、案内等を掲載する。(わかりやすいパンフレットを作成・配布する。)	1	【平成22年度の実施状況】 ○22年10月に大方の診療科再編は終了したが、一部準備中の診療科・室が残っており、その準備が整い次第地域中核病院にふさわしいHPに更新する予定である。 ○診療科再編後の病診連携パンフレットを配付した。		B	附属病院のホームページの更新については、経費削減の観点から診療科再編を見据えて行う予定であり、病診連携パンフレットは配布した。概ね計画を達成していると考ええる。		52
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】					
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
18										
19										
20										
21										
22										
		2-5	【平成22年度計画】 【効率的な歯科材料流通システムの導入】 ○医科・歯科材料費のムダを省き、効率的な予算執行を継続する。 ・医科・歯科で利用する同種材料についてS. P. D. (医療品等供給管理室)データを詳細に検討し、できる限り安価で上質の材料に一本化を図るとともに、これにより不必要となる材料の購入を中止する。 ・一般保険診療の医療材料費率を21%と設定する。	1	【平成22年度の実施状況】 ○物品供給管理室(SPD)において、診療材料を徹底的に見直し、不必要材料の購入中止及び同種材料の統一化を図った。 ○SPDシステムの活用により、昨年並みに診療材料費を抑えることができた。 21年度 88%→22年度 87% ○H22年度の一般保険診療の医療材料費比率は25%となった。 21年度 25% → 22年度 25%		B	診療材料費や一般保険診療の診療材料費比率はほぼ前年度並となったが、SPDによる診療材料費の見直しは着実に進んでおり、概ね計画を達成している。		53
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)				(決定)	【意見・コメント等】					
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)										
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
18										
19										
20										
21										
22										

項目	実施事項	平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																			
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度																	
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度先進医療に関して保険給付を受ける特定承認保険医療機関となるため、18年度から承認申請を行い、20年度にインプラント及び歯周病に関し先進医療の認定を受けた。21年度は、20年度に承認された2件の先進医療を進めている。また、新規先進医療保存科及び義歯科において、申請に向けて症例を収集中である。先進医療に関する詳細は、随時ホームページで更新している。 治療や看護の手順を標準化し診療の効率化を図るためのクリティカル・パスについては、各診療科のマニュアルをもとに検討を進め、外来患者が最も多い保存診療科を手始めとして20年度に口腔外科及び補綴が完了した。21年度には、各科共通の九州歯科大学附属病院クリティカルパスが完成し各診療科に配付した。 ホームページにおいて、新規に導入した技術や治療法を公開したほか、歯科医院向けに患者紹介方法を掲載し、情報サービスを行った。21年度は、マイナーチェンジ(各診療科で新しい治療法や材料等の情報提供)を行ってきた。22年度中に診療科目の再編がよいていされており、診療科の名称も変更となるため、それに併せて附属病院のHPも大きく変更となる予定である。 効率的な歯科材料流通システムを実現するため物品供給管理室業務(SPD)を導入し、不必要材料の発注中止や同種材料の統一化を行い、より効果的な在庫管理が可能となった。これにより、病院収入に対する材料費の割合は、19年度16.2%→20年度15.9%→21年度14.0%となった。 	B				中期 3 4																		
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【高度先進医療の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療科再編に伴い、各診療科へ教職員を適正配置し、専門外来における先進医療を進める。 平成20年度に2件承認された先進医療の認定取得を更に進める。 <p>【クリティカル・パス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 完成した共通マニュアルを実施することで、どのような問題点が存在するか考察するとともに改良・改善する。 <p>【ホームページの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 附属病院のホームページを利用した診療に関する充実した情報サービスの提供を検討する。 見やすく操作しやすいホームページに改善する。 地域中核病院の治療内容を詳細に掲載する。 昨年度10月の診療科の再編を契機として、懸案として引き継がれたわかりやすい病院組織、案内等を掲載する。(わかりやすいパンフレットを作成・配布する。) <p>【効率的な歯科材料流通システムの導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医科・歯科材料費のムダを省き、効率的な予算執行を継続する。 医科・歯科で利用する同種材料についてS.P.D.(医療品等供給管理室)データを詳細に検討し、できる限り安価で上質の材料に一本化を図るとともに、これにより不必要となる材料の購入を中止する。 一般保険診療の医療材料費率を21%と設定する。 院外処方を採用する。 																							
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																										
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】																							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中期目標期間評価 (暫定評価)</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18～21年度(4年間)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18～22年度(5年間)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価		評価委員会		評価	ウェイト	評価	ウェイト	18～21年度(4年間)					18～22年度(5年間)					業務実績評価書の記載内容					
中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価		評価委員会																									
	評価	ウェイト	評価	ウェイト																								
18～21年度(4年間)																												
18～22年度(5年間)																												
		ウェイト総数		中期 8	22年度 18	項目数計		中期	22年度																			

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- 4 : 前年度に引き続き主に産業の創生につながる研究を展開し、外部からの研究費を獲得するよう努める。
- 5 : 人件費の抑制は法人にとって継続した課題であり、教員数と事務職員数を適正管理し効率的な配置を行う。

項目	実施事項	平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番号	通し番号	
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由		中期	年度

財務に関する特記事項(平成22年度)

なし

(評価委員会)

【報告内容に関して確認した事項】

【意見・コメント等】

財務に関する特記事項の業務実績評価書の記載内容

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 6 評価		「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。」									
教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、その評価結果を速やかに公表する。 計画・実行・評価・改善の仕組みを確立し、教員の個人業績評価、県評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。											
項目	実施事項	平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ 番 号	通し番号	
			中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由		中期	年度
1. 評価の充 実	1【大学評価・個人業績評価の充実と 評価結果の公表・反映】 ①大学運営に関する自己点検・評 価を実施するとともに、県評価委員 会と学外認証評価機関が行った評 価結果を教育研究や大学運営改善 に反映させる。 ②教員の個人業績評価を給与に反 映させる。	1-1【平成22年度計画】 【大学自己点検・評価】 ○大学運営については業務評価の自己点検・評価を実施し、 今年度実施の大学評価・学位授与機構による外部評価の受 検体制は、認証評価委員会を中心に対応する。 ・大学運営については業務実績自己評価を厳格に実施し、 評価結果を次期年度に反映させ大学運営の改善向上につな げる。 ・自己点検・評価結果は学内外に公表する。 ・大学認証評価準備は、定められたスケジュールに従い、学 外認証評価機関による評価を受ける。		1	【平成22年度の実施状況】 ○業務実績報告に係る自己評価については、前年度の評価結果を踏まえ、より厳格に行なったが 評価委員会の評価と相違するものがあった。自己評価及び評価結果は全学説明会において教職 員に周知するとともに、業務実績報告書としてホームページに掲載した。 ○大学認証評価については、作業部会において作成した「大学機関別認証評価自己評価書」及び 「選択的評価事項に係る自己評価書」を認証評価委員会で審議し、6月に大学評価・学位授与機構 に提出した。 ○12月の大学評価・学位授与機構の現地調査を経て、23年3月に評価結果が公表され、本学は 「大学評価基準を満たしている」との評価がなされた。 ○厳格に行なった自己評価においては改善を要する点は22項目であったが、評価結果では改善を 要する点は0であった。 ○自己評価書及び評価結果はホームページで広く外部に公表するとともに、全学説明会において 学長自ら教職員に対し評価結果を説明した。		年度	A	法人運営に関しては、県評価委 員会の評価を基に厳格に自己評 価を行ない改善に努めている。 また、大学認証評価に関して は、認証評価委員会と自己評価 部会が一体となり、時間を掛け 十分に議論し厳正な自己評価を 行なうことができた。これにより、 大学評価・学位授与機構の評価 が自己評価を大きく上回る結果 となったが、これは大学として多 大な時間と労力をかけたことよ るものであり、自己点検・評価 を計画を上回って実施したと認 識している。	32	54
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)					(決定)	【意見・コメント等】					
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
18											
19											
20											
21											
22											
1-2	【平成22年度計画】 【評価委員会等の評価結果の反映】 ○評価委員会の評価結果は、法人にとり最優先の対応を要す 事項として学内発表を行い、速やかに大学運営に係る諸施 策への反映を進める。 ・評価結果は受領次第、全学説明会において全教職員にそ の内容を周知せしめる。 ・改善を求める指摘については、速やかに対応策を講じる。		1	【平成22年度の実施状況】 ○評価委員会の評価結果、他の2大学との評価の比較、本学の課題などについて、8月26日開催 の全学説明会で学長が教職員に説明・周知した。 ○評価委員会での評価が低かった社会貢献におけるリカレント教育の充実については、e-learning のデモプログラム数を増やしアクセス件数を増やすなど、評価結果を大学運営に反映させた。		年度	B	評価委員会の評価結果、これに よる大学運営の課題を直ちに教 職員に周知したこと、また計画未 達成と判断されたe-learningシス テムについてはデモプログラム 数を増加しており、概ね計画を達 成した。	32	55	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)					(決定)	【意見・コメント等】					
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容					
18											
19											
20											
21											
22											

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
項目	実施事項	中期	年度	中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
		1-3	【平成22年度計画】 【個人業績評価の給与への反映】 ○過去4年間の実施実績を踏まえ、効果的な給与反映方式を確立する。 ・教員の優れた実績評価結果に報いる本学独自の支給方式を継続する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○法人・大学に特に貢献した活動を行った教員11名に特別賞を与えた。 ○個人業績評価が上位か業績が改善した教員に給与を上乗せする現行制度を継続した。 ○個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導(分野長同席)を継続して行った。		B	個人業績評価により延べ79名の教員について給与への反映を実施しており、計画どおり進んでいる。		56		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)		(決定)	【意見・コメント等】								
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容							
18													
19													
20													
21													
22													
					1	<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <p>①については、 【平成18年度】平成22年度に大学評価・学位授与機構による外部評価を受ける準備作業として自己点検・評価作業部会を設置した。また、大学自己点検・評価である業務実績評価を実施する体制を整えた。</p> <p>【平成19年度】公立大学法人評価委員会から受けた評価結果を理事長以下学内理事で直ちに分析し、内容の確認と対応を協議し全学説明会で全教職員に概要と対応策を説明した。大学評価・学位授与機構による外部評価への対応としては、作業部会を中心に自己評価に必要な内容と資料の洗い出し、アンケート調査などの具体的な作業を開始し、その進捗状況について役員会と「部会だより」で学内に報告し大学運営に役立てた。</p> <p>【平成20年度】公立大学法人評価が低かった事項の改善のため、社会貢献活動への予算配分と情報・広報委員会の組織見直しを実施した。大学評価・学位授与機構への対応として、学長直属の「認証評価委員会」を設置し大学全体としての組織的取組体制を整えた。「部会だより」は隔月で継続発行し全学教職員学生へアンケート調査結果の周知に努めた。</p> <p>【平成21年度】認証評価委員会と作業部会が中心になって自己点検・評価を継続実施し、H22年度の大学評価・学位授与機構による外部評価の準備を進め、作業部会が作成した大学機関別大学自己評価書と選択的評価事項に係る自己評価書の校正を認証評価委員会が実施した。自己点検・評価結果を業務実績報告書として大学ホームページの法人情報に掲載した。また、評価結果を大学運営の改善へ繋げている。認証評価への準備を進める過程で判明した本学の長所と欠点をFDで教職員に公表・周知した。アンケート調査(毎年)、部会だより(年6回発行)、部会開催(年12回)を継続実施した。 大学評価委員会の業務実績評価結果を直ちに学長が8月27日の全学説明会で結果と対策方法を説明・周知した。業務実績評価結果で評価が低かった社会貢献のリカレント教育・公開講座への対応と、教育評価で問題となった国家試験合格率低下と授業評価対象科目の拡大への対策を直ちに実行した。</p> <p>②については、 【平成18年度】平成19年度から個人業績評価を給与に反映する計画の実現のため全教職員を対象に全学説明会で説明し、試行することで来年度実施に向けた準備を整えた。</p> <p>【平成19年度】前年度の試行において問題点が指摘されたことについて修正を加え、評価基準等について全員に通知し12月支給に間に合わせる事ができた。</p> <p>【平成20年度】新たに「同僚による評価」を評価基準に加えることにより評価システムの向上に努めた。また業績に著しく改善が見られる教員に対しては「特別賞」を設けるなど教員に対して奮起を促している。</p> <p>【平成21年度】法人・大学に特に貢献した活動を実施した教員に与える新設の(平成20年度の特別賞とは異なる)特別賞を創設した。個人業績評価が上位か業績が改善した教員に給与を上乗せして支給する制度を継続・改善した。個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導措置を開始した。個人業績評価による任期制の再任審査の審査基準を全学説明会で公表した。</p>		A		中期 3 5			

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号		
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【大学自己点検・評価】</p> <p>○大学運営については業務評価の自己点検・評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学運営については業務実績自己評価を厳格に実施し、評価結果を次期年度に反映させ大学運営の改善向上につなげる。 ・自己点検・評価結果は学内外に公表する。 ・学外評価機関による評価結果を大学運営に反映させるための検討を行うとともに、結果を公表する。 <p>【評価委員会等の評価結果の反映】</p> <p>○評価委員会の評価結果は、法人にとり最優先の対応を要する事項として学内発表を行い、速やかに大学運営に係る諸施策への反映を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果は受領次第、全学説明会において全教職員にその内容を周知せしめる。 ・改善を求める指摘については、速やかに対応策を講じる。 <p>【個人業績評価の給与への反映】</p> <p>○過去5年間の実施実績を踏まえ、効果的な給与反映方式を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の優れた実績評価結果に報いる本学独自の支給方式を継続する。 						
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)									
		中期目標期間評価 (暫定評価)	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容						
		評価	ウェイト	評価							ウェイト
		18～21年度(4年間)									
		18～22年度(5年間)									
		ウエイト総数	中期	22年度			項目数計		中期	22年度	
			1	3							

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

評価に関する特記事項(平成22年度)	
なし	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】	【意見・コメント等】
評価に関する特記事項の業務実績評価書の記載内容	

項目別の状況(年度計画項目)

中期目標 7 情報公開		「情報公開を積極的に推進する。」											
		入学希望者、学生、県民、企業などに対し、次のような情報を積極的に提供する。 ・大学や教員の評価に関する情報 ・組織、教職員、施設設備、入学試験などに関する情報 ・カリキュラム、シラバス、教員の研究成果や地域貢献活動などに関する情報 ・学生の就職支援や卒業生の進路状況に関する情報 ・公開講座、大学施設の開放などに関する情報 ・予算や決算など財務に関する情報											
中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等		自己評価			通し番号		
項目	実施事項			中期	年度			中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
1. 情報公開 等の推進	1【情報公開に関するガイドラインの 作成および情報公開の積極的な推 進】 ①大学情報の積極的な公開を推進 するために、情報公開に関するガイ ドラインの作成を検討する。また、 常に新しい、充実した内容が掲載さ れるよう、ホームページの充実を 図っていく。 ②シラバス、研究成果、入試情報、 事業計画、中期計画、組織・運営情 報などの各種情報を広く公表する。	1-1	【平成22年度計画】 【ガイドラインの実施】 ○広報・情報委員会を中心に、法人・大学情報の積極的な公 開を推進する。 ・広報・情報委員会を中心に本学として公開が望ましい情報 を整理し、未公開の情報につき順次公開を進める方針で執行 する。 ・ホームページを通じた情報公開を拡充する。 ・策定されたガイドラインや運用ルールの学内周知に努め る。 ・職員に対して、情報公開に関する研修を実施する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○学校教育法施行規則の改正により、大学は教育研究活動等の情報を公表することが義務づけら れたことを受け、10月に広報・情報委員会に専門部会を設置し情報公開の準備に入った。 ○専門部会では、公立大学協会のガイドラインに沿って作業を進め、公開する情報を整理するとと もにホームページの改修に着手した。 ○22年度末に本学ホームページでの情報公開及び公立大学協会のホームページへのリンクが完了 した。 ○情報公開に関する教職員の研修は、福岡県県民情報広報課職員を講師に迎え23年3月に実施 した。(参加者52名)		B		広報・情報委員会及びその専門 部会において、計画的に大学情 報の公表に係る準備を行い、予 定どおり23年3月末にホーム ページでの公表システムが完了 した。 計画どおり進捗した。			57
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容							
18													
19													
20													
21													
22													
1-2	【平成22年度計画】 【ホームページの充実】 ○常に内容が新しく、見る者をひきつけるホームページ作りを 推進する。 ・英文化、保護者欄などを利用し、情報提供の主たる手段と して内容を充実する。 ・稼働実態の把握のため運用関連計数の把握・分析を検討 する。 ・アクセス件数が前年比増加するような創意工夫する。(ア クセス件数 160,000件以上) ・口腔保健学科欄を新設し、内容を広報する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○教育研究活動等の情報公表制度に基づき、「教育情報の公表」欄を新設した。 ○英文化したホームページの内容更新を行なうとともに、保護者欄や一般・企業欄を活用し最新の 大学情報を提供した。 ○「受験者向け」、「保護者向け」等の対象者別の公開情報を絶えず検証・分析し、大学として発信 したい情報、外部から求められる情報の提供に努めている。 ○22年度アクセス件数は、151,681件(21年度 141,295件) ○口腔保健学科欄については、一定の情報量が集まった段階で新設する予定であり、現在はホ ームページ本文で関連情報を提供している。		B		ホームページのアクセス件数は 目標に届かなかったが、「教育 情報の公表」欄を新設し、また、 タイムリーに内容を更新し外に 向かって情報発信した。口腔保 健学科専用欄は情報量の確保 を待って新設することにしてお り、概ね計画を達成している。			58		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・A・B・C・D)		(決定)		【意見・コメント等】							
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)											
年度 評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容							
18													
19													
20													
21													
22													

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号			
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度	
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <p>【平成18年度】ガイドラインは県の関係規程を準用した。大学および附属病院のホームページを全面改修し、更新した。</p> <p>【平成19年度】法人の情報公開・広報活動を統括する組織として広報委員会を新設した。ホームページの運用管理要領並びにガイドラインを策定し、専門部会による趣旨徹底を実施した。ホームページは、豊富な新着情報や「附属病院」、「Q-shidai ゼミ」欄の新設等の内容の充実が図られ、法人による広報活動の中核の役割を果たすようになった。e-learning推進のため採用した囑託をホームページの運用管理にも活用し、円滑な稼働を行った。</p> <p>【平成20年度】広報委員会を広報・情報委員会(年2回開催)に改編した。法人情報の公開、ホームページの運用・管理方法を策定した。さらにホームページによる情報公開やメーリングリスト設置のガイドラインを定めた。ホームページのカテゴリー内の更新は、担当責任部署で行うことを決定した。さらに、広報・情報委員会のもとに「ホームページ専門部会」を設置して運用の適正な管理を行った。一般の方が見やすくわかりやすくする工夫として、各対象者別に保護者欄や一般・企業欄を新設し情報を提供した。トップページ上に重要な「お知らせ」が一覧表示されるようになった。アクセス件数が4,500件(19年度:4000件)と増加した。</p> <p>【平成21年度】ホームページ内容ごとに事務の担当責任部署を明確にした。統括部署が内容を確認するなど運用管理体制を改善した。その結果、公開が望ましい情報や新着情報の提供を円滑に行うことができた。H20年度に策定されたガイドラインや運用ルールを学内専用ホームページに掲載し、引き続き周知に努めた。福岡県県民情報広報課の職員を講師に迎え、職員に対して、情報公開に関する研修を行った。(H22年3月、参加者81人)</p> <p>ホームページ内にある古い情報等は、統括部署が内容の確認を行い、各担当責任部署において最新のものに改めた。ホームページの英文化や保護者欄、一般・企業欄を活用し、日本語圏外の方や学外の方への情報提供を強化した。特に英文化においては、広く大学の情報を発信する上で非常に有効だった。「受験生向け」、「保護者向け」、「一般向け」など対象者別や月単位での集計・分析を行い、その結果を踏まえてページ構成の変更に対応できるようになった。アクセス件数:141,295件(20年度143,124件)</p>	B			中期 3 6			
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【ガイドラインの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広報・情報委員会を中心に、法人・大学情報の積極的な公開を推進する。 ・広報・情報委員会を中心に本学として公開が望ましい情報を整理し、H23年度から大学の教育研究活動等の情報についても、ホームページを通して公表を行う。 ・ホームページを通じた情報公開を拡充する。 ・策定されたガイドラインや運用ルールを学内周知する。 ・職員に対して、情報公開に関する研修を実施する。 <p>【ホームページの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○常に内容が新しく、見る者をひきつけるホームページ作りを推進する。 ・英文化、保護者欄などを利用し、情報提供の主たる手段として内容を充実する。 ・稼働実態の把握のため運用関連計数の把握・分析を検討する。 ・アクセス件数が前年比増加するような創意工夫する。(アクセス件数 160,000件以上) 							
		(評価委員会)		【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】		(決定)	【意見・コメント等】							
		無・有(A+)・A・B・C・D)										
		【ウェイトの修正の有無】										
		無・有(2→1・1→2)										
		中期目標期間評価 (自己計画)	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容							
		18～21年度(4年間)										
		18～22年度(5年間)										

中期計画		平成22年度計画		ウェイト		計画の実施状況等		自己評価			通し番号	
項目	実施事項	2-1	【平成22年度計画】	中期	年度	【平成22年度の実施状況】	中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度
2	【個人情報保護の徹底】 福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に努める。そのために、教職員に対し、個人情報保護に関する意識を徹底させる。また、コンピュータからの情報漏洩を防ぐため、インターネット等のセキュリティの強化を図る。	2-1	【平成22年度計画】 【職員に対する啓発活動】 ○福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に継続して努める。 ・職員に対し、個人情報保護に関する研修を実施する。		1	【平成22年度の実施状況】 ○個人情報の保護及び情報公開に関する知識の習得、意識向上を図るため、大学のすべての教員及び職員を対象に福岡県民情報広報課職員を講師とする研修会を23年3月に実施した。 (参加者52名)		B	今後参加者を増やす努力は必要であるが、予定どおり研修会を実施しており年度計画を十分に達成している。			59
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)												
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)												
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)												
年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
18												
19												
20												
21												
22												
2-2	【インターネット等のセキュリティの強化】 ○インターネット等のセキュリティを引き続き強化し、法人システムの安全運用を確保する。 ・外からの不正侵入、内からの不正漏洩、内部間の不正データ搾取を防止するため、ハード・ソフト両面に導入したセキュリティシステムを、引き続き維持強化する。 ・システム運用状況を管理・監視する仕組みを継続検討する。 ・他大学におけるセキュリティ管理状況の情報収集を行う。		【平成22年度計画】		1	【平成22年度の実施状況】 ○現行のセキュリティシステムを維持・運用することにより、適正な情報管理と安全運用が行えた。 ○事務局においてPCの更新にあわせ、より強固なファイル管理とPCセキュリティを実現するサーバーシステムを試行導入した。 ○公立大学協会情報部会が主催する情報セキュリティセミナーに引き続き参加し、必要な情報の収集を行った。 ○新たなセキュリティポリシーの策定及び情報マネジメントの構築に向け、他大学等から情報を取っている。		B	現行システムの維持により安全を確保しており、第2期中期計画に向け情報マネジメント及び情報セキュリティの強化のための課題や方策を検討しているところであり、年度計画を十分に達成している。			60
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)												
【自己評価の修正の有無】 無・有(A(+)・ A ・ B ・ C ・ D)												
【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1 ・ 1→2)												
年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価 評価	ウェイト	備考	業務実績評価書の記載内容						
18												
19												
20												
21												
22												

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			通し番号																				
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由	データ 番号	中期	年度																		
			1		<p>【平成18～21年度の実施状況概略】</p> <p>【平成18年度】個人情報保護の趣旨について、教員全員に対して徹底した。事務局ネットワークを学内LANに収容した際に、ファイアーウォールを設置し、事務局内の情報が他のネットワークに漏えいしないための対策を施しセキュリティを強化した。本館に新システムを構築した。</p> <p>【平成19年度】福岡県個人情報保護条例に準じた個人情報保護方針を広報委員会において策定した。全職員にその趣旨を徹底するために、福岡県民情報広報課の協力を得て12月に「個人情報・情報公開研修会」を開催した。患者情報の管理については「診療情報に関するガイドライン」に従った取り扱いを徹底した。新本館移転後に稼働した新システムに、新たに「ファイアーウォール」機器を導入し、厳格なセキュリティ管理を実施した。平成18年度に導入した旧システムの「ファイアーウォール」機器は、「三大学財務システム」に活用し、三大学の財務・会計情報のセキュリティ管理を強化した。内部PC間ウィルス蔓延や「ウィニィ」による不正データ搾取を防ぐため、学内全PCにセキュリティソフト「ウィルスバスター」を配布し、情報システムの安全運用を図った。</p> <p>【平成20年度】前年度に引き続き個人情報保護及び情報公開の主旨を徹底するために、大学内全職員に対して、福岡県民情報広報課の職員を講師に迎えて研修会を開催した。附属病院のカルテなど、個人情報に関する文書を選別した上で、病院職員に対し適正な取扱いを個別に指導した。平成18年度に整備したゲートウェイ対策を引き続き維持運用した。クライアント対策についても、法人で対策ソフトを一括導入した。学内のパソコンの運用を管理・監視する方法として、集中管理システムを導入して、一括管理・監視方式を検討した。法人セキュリティポリシー及び情報マネジメントの運用体制について、他大学の情報収集を行い検討を行った。</p> <p>【平成21年度】大学内全職員に対して、個人情報及び情報公開の趣旨を徹底するために、福岡県民情報広報課の職員を講師に迎え研修会を22年3月(参加81名)に開催した。附属病院・医療情報システムのセキュリティについて内部監査を行い、強化策の参考とした。ネットワークセキュリティ動向や同等施設との比較を行い、監視面の適切な調整を行いつつ、平成18年度導入の機器によるシステム運用を行っている。公立大学協会・情報部会が主催する情報セキュリティセミナーに参加し、情報収集を行った。法人セキュリティポリシー及び情報マネジメントの運用体制について、他大学の情報収集を行った。教職員の苦情等は情報処理室及び情報統括部署にて対応を行った。</p>	B			中期 3 7																				
					<p>【平成23年度の実施予定】</p> <p>【職員に対する啓発活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に継続して努める。 ・職員に対し、個人情報保護に関する研修を実施する。 <p>【インターネット等のセキュリティの強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インターネット等のセキュリティを引き続き強化し、法人システムの安全運用を確保する。 ・外からの不正侵入、内からの不正漏洩、内部間の不正データ搾取を防止するため、ハード・ソフト両面に導入したセキュリティシステムを、引き続き維持強化する。 ・システム運用状況を管理・監視する仕組みを継続検討する。 ・他大学におけるセキュリティ管理状況の情報収集を行う。 																								
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)																											
		【自己評価の修正の有無】 無・有(A+)・A・B・C・D)	(決定)	【意見・コメント等】																									
		【ウェイトの修正の有無】 無・有(2→1・1→2)																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">中期目標期間評価 (自己評価)</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> <th rowspan="2">業務実績評価書の記載内容</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18～21年度(4年間)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18～22年度(5年間)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	中期目標期間評価 (自己評価)	自己評価		評価委員会		業務実績評価書の記載内容	評価	ウェイト	評価	ウェイト	18～21年度(4年間)						18～22年度(5年間)										
中期目標期間評価 (自己評価)	自己評価			評価委員会		業務実績評価書の記載内容																							
	評価	ウェイト	評価	ウェイト																									
18～21年度(4年間)																													
18～22年度(5年間)																													
		ウエイト総数	中期	22年度				項目数計	中期	22年度																			
			2	4																									

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

情報公開に関する特記事項(平成21年度)	
なし	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】	【意見・コメント等】

情報公開に関する特記事項の業務実績評価書の記載内容

中期計画		平成22年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価			データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		中期 ↓ 変更	年度	中期(暫定評価)変更理由 又は年度評価理由		中期	年度

項目別の状況(年度計画項目)

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価	
		計画	実績			
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)		差額 (b)-(a)
		費用の部	3,538	3,432	▲ 106	-
		経常費用	3,538	3,411	▲ 127	
		業務費	3,241	3,119	▲ 121	
		教育研究経費	426	433	6	
		診療経費	733	707	▲ 25	
		受託研究費等	19	12	▲ 6	
		人件費	2,061	1,966	▲ 95	
		一般管理費	296	289	▲ 6	
		(減価償却費 再掲)	(218)	(197)	(▲ 21)	
		財務費用	1	1	0	
		雑損	-	0	0	
		臨時損失	-	20	20	
		収益の部	3,572	3,532	▲ 39	
		経常収益	3,572	3,511	▲ 60	
		運営費交付金収益	1,596	1,563	▲ 32	
		授業料収益	358	359	0	
		入学金収益	62	64	1	
		検定料収益	7	9	1	
		附属病院収益	1,181	1,188	7	
		受託研究等収益	6	16	9	
		補助金等収益	148	93	▲ 54	
		寄附金収益	14	17	2	
		その他の業務収益	-	0	0	
		^λ 資産見返補助金等戻入	9	9	▲ 0	
		資産見返補助金等戻入	109	103	▲ 5	
		資産見返寄附金戻入	10	9	▲ 0	
		資産見返物品受贈額戻入	15	24	8	
		財務収益	0	0	▲ 0	
		雑益	50	50	0	
		臨時利益	-	20	20	
		当期純利益	33	100	66	

2. 資金計画予算		(百万円)		
区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
資金支出	3,412	3,319	▲ 93	
業務活動による支出	3,315	3,067	▲ 248	
投資活動による支出	71	225	154	
財務活動による支出	25	26	0	
資金収入	3,427	3,442	15	
業務活動による収入	3,426	3,442	15	
運営費交付金収入	1,596	1,596	0	
授業料収入	358	360	1	
入学金収入	62	64	1	
検定料収入	7	9	1	
附属病院収入	1,181	1,183	1	
受託研究等収入	6	16	10	
補助金等収入	148	144	▲ 4	
寄附金収入	14	16	1	
その他の収入	50	60	9	
預り金等の純増加額	—	▲ 8	▲ 8	
投資活動による収入	0	0	▲ 0	
財務活動による収入	—	—	—	
資金増加額	14	123	108	
II 短期借入金の限度額	1. 短期借入金の限度額 3億円 2. 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入すること。	該当なし		—
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし	該当なし		—
IV 剰余金の使途	教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。	平成21年度剰余金145,691,017円を目的積立金とした。 目的積立金124,812,187円を取り崩し、以下のとおり教育及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 活用内容 ・附属病院における診療機器の更新 ・施設改修		—
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし	該当なし		—

項目別の状況(中期目標項目)

中期目標項目	法人 自己評価	評価委員会 意見・コメント等
1. 教員	【平成22年度】 今年度もFDを通して「教育方法の改善」及び「カリキュラム改編」を中心に教育力の向上に努めた。さらに、歯科大学の教育目標の原点である優秀な歯科医師を社会に輩出するという傾注し、国家試験成績の向上を目指した。この点に関しては、学部長のもと教授会・教務部会・学年主任制度が一丸となって、学部教育に取り組んだ。 昨年度に開始した九州工業大学との歯工学連携においては、単位互換制度を活用する学生が増え、今年度九州工業大学において歯科に関する単位を取得して修士課程を終えた学生が3名となった。 一方、平成22年度に開設した口腔保健学科に関しては、4年間のカリキュラム編成を終了した。	
2. 研究	【平成22年度】 社会の発展と歯科技術の向上を目指した研究活動を進めた結果、外国雑誌掲載の研究論文や国際学会での発表数、さらに外部資金獲得もが目標を上回った。 九州工業大学との共同研究成果をソウル大学・九州歯科大学・九州工業大学の3大学合同で国際シンポジウム(九州歯科大学主催)を開催し、歯工学連携の研究成果を世界に向けて発信した。	
3. 社会貢献	【平成22年度】 昨年度から開始した附属病院の診療科再編を終え、より地域中核病院としての体制を強化した。特に、病診連携体制を充実させ、紹介率の向上を目指した。さらに、ネパール歯科医療協力隊の活動を継続し、海外における歯科保健活動を展開した。特に今年度は学部学生にこの活動への参加を呼びかけ、夏隊・冬隊計5名の学生が参加し、アジアにおける歯科保健活動を体験した。	
4. 業務運営	【平成22年度】 大学の教育研究目標に沿って、弾力的かつ計画的な人員配置、予算配分を行った。目的積立金を活用し、附属病院において設備更新計画に基づく中央材料室滅菌装置等の更新や診療科再編にともなう施設改修等を行った。将来の自律的法人運営を見据え、事務局機能を強化するため、次期中期計画期間の開始に合わせ平成24年度からプロパー職員を採用し、専門性を有する事務職員の育成を図ることとした。また、定められた制度の規程に従い、22年度末に任期を迎える教員のうち再任を希望する教員全員について、再任審査会で審査を行い全員再任した。	
5. 財務	【平成22年度】 法人経費の多くを占める人件費について、教員数の慎重な管理等により運営交付金枠内で執行できたことや、外部資金が昨年度を上回り順調に獲得できたことで、法人の財務は引き続き安定した執行となった。 病院収入に関しては、懸念していた診療報酬額は前年度を上回り、また患者紹介率も前年度とさほど変化なく推移した。検診分野の収入は伸び悩んでいるが、訪問診療の件数や収益は順調に伸びている。また、外部での健診業務は例年通りとなったが、受診者の満足度は目標を大きく上回っている。診療材料費及び一般保険診療の材料費比率はほぼ前年度並となったが、SPDIにより見直しは着実に進んでいる。	
6. 評価	【平成22年度】 外部認証評価については、時間を掛け厳格に行った大学機関別大学自己評価と選択的評価事項に係る自己評価書に基づく大学評価・学位認証機構の審査を受けた結果、「基準を満たしている」という総合評価を受け、自己評価では22項目あった「改善を要する点」が0という評価結果になった。 また、県の公立大学法人評価委員会の評価結果については、全学説明会で周知し、特に評価結果が低かった項目についてはその対応を行った。個人業績評価に関しては、法人・大学に特に貢献した活動を行った教員へ特別賞を与えるなど、適宜評価方法を見直し給与に反映している。	
7. 情報公開	【平成22年度】 教育研究活動情報の公表の義務化に向け、広報・情報委員会に専門部会を設置し、公立大学協会のガイドラインに沿って準備を行い、23年3月末にホームページでの公開及び公立大学協会ホームページへのリンクが完了し、これにより積極的に大学情報の公開が行えるようになった。教職員対しては、引き続き研修会を開催し、情報公開の意義や個人情報保護の重要性等の啓発を行った。	

全体的な状況

区分	法人 自己評価	評価委員会 意見・コメント等
業務の実施状況について	<p>当年度は、通常の業務に中期計画の暫定自己評価、大学機関別認証評価の受審、そして次期中期計画の素案作成が加わり、多くの業務対応に追われる一年となったが、理事長を中心に組織的に取り組み、総じて円滑に業務運営を進めることができた。</p> <p>本学の使命は「高度な専門性を持った歯科医療人の育成」にあり、「口の総合大学」として重要な役割を果たす口腔保健学科を、第1期生25名を迎えこの年度に無事創設することができた。又、新卒歯科医師の臨床力低下が唱えられる中で、本学歯学教育の特色として「確かな臨床力を備えた歯科医師の育成」に重点を置き、最新の実習設備を活用した基礎実習及び附属病院における登院実習の一層の内容充実を努めた。</p> <p>歯科医師過剰問題に起因する深刻な影響は当年度も本学に及んだが、その中であって国公立歯科大学でトップクラスの受験倍率を維持し、厳しさを増す歯科医師国家試験においても全国4位という高い合格率を達成することが出来た。この成果は、かねてより構築した個々の学生の入学から卒業までの成績を管理分析するシステムを通し、教員・学生・父兄が一体となって目標達成を目指す体制が、着実に効果を現したものと考えられる。</p> <p>研究面においては、若手教員を中心に当年度も活発な活動が続き、文科省科研費新規採択率で全国25位という研究水準の高さを示す成績を収めた。社会貢献の一環として公開講座等による研究成果の発表も計画通り実施し、時代に沿うテーマが多く好評を得た。</p> <p>又附属病院の診療業務については、懸案の診療科再編をこの年度に断行し、地域の中核病院として患者目線に立つ診療体制を整えた。</p> <p>そして本学における教育・研究・臨床・社会貢献の夫々の活動を後方から支える事務については、事務局長を中心に正確さと効率の両面を実現することに努め、その結果福岡県監査委員より「指摘事項なし」との評価を得た。</p>	
財務状況について	<p>当年度は、運営費交付金が所定の算定額から特別に38百万円減額調整され、当初から厳しい予算運営となったが、慎重な経費管理と附属病院収入を含めた自己収入の増加、そして計画的な目的積立金の活用により、最終的には経常利益として1億円を計上する順調な決算に収まった。</p> <p>収入面では、前年度比51百万円の増収となった病院収入の貢献度が大きい。総患者数が前年度と横這いで推移する中で増収が実現できた主な理由は、保険診療報酬料率の2.09%アップという外的な要因と、これまで殆ど手付かずの年間20百万円を超える保険診療報酬の返戻・減点について、外部識者を投入し組織対応した結果、当年度にはその額を年間1百万円以下に削減できたことが挙げられる。</p> <p>一方支出面では、経費の3分の2を占める人件費の抑制を継続し、主として教員の後任配置を教育・研究活動に影響しない範囲で慎重に行ったことで、当初予算を下回る年間実績に収めることが出来た。人件費を除く経費についても、組織内の経費節減意識は高く厳格な予算運営が行われた。</p> <p>診療機器を中心とした大型更新案件については毎年度福岡県に支援を求め、この年度においてもCT(55百万円)及びMRI(199百万円)が更新された。その他研究及び診療施設・設備については、優先度に応じ目的積立金の充当による自力更新を進め、当年度には合計11件125百万円を実施し、法人の予算運営に負担を及ぼすことなく教育等環境の改善整備を図った。</p> <p>なお、法人の資金繰りについては、法人化以降の蓄積もあり年度を通じて特に問題なく運営された。</p>	
法人のマネジメントについて	<p>福岡県から再任を受けた福田理事長は、任期2年の開始に当り法人・大学の組織構成をあらためて整えた上で、「口腔保健学科の円滑な発足」をはじめとする重点取組10項目及び年度実施計画60項目の達成を、当年度法人運営の基本方針とすることを学内に示し、その方針の下で法人・大学の運営が進められた。</p> <p>又当年度は、中期目標期間4年間の暫定自己評価を行い、外部認証評価機関による7年に一度の大学機関別認証評価を受審する年度でもあったため、夫々に学内特別組織を設置して対応した。その結果、暫定自己評価においては「現段階で中期目標達成に大きな遅れを示す項目はない」との評価となり、認証評価においては外部機関から「基準を充たしている」との評価結果が与えられた。</p> <p>法人がこの年度に細心の注意を払った最重要課題は、国からの歯学科入学定員削減要請であった。本学は今の段階でその要請を受け入れることなく、その原因となる歯科医師過剰問題に対して、県立の歯科単科大学である特色を更に生かし、このような厳しい環境においてもその存在が高く評価される大学であり続けることこそ今採るべき途と認識し、入試改革・国試対策から附属病院を通じた社会貢献活動までの幅広い領域に対して、理事長を中心に要員及び資金面の優先投入を行いながら取組んだ。</p> <p>本学は社会の要請に応じこれまでも法人情報の公開に努めてきたが、平成22年6月に学校教育法施行規則等の一部を改正する省令が公布され、平成23年4月をもって教育研究情報の公表が義務化された。このため学内特別組織による準備を急ぎ、本学ホームページを通じた所定の情報公開を年度内に実現した。</p> <p>法人の運営を支える事務局の機能強化に関しては、蓄積される知識・経験の継承の課題についてこの年度に福岡県と協議を重ねた結果、一部職務のプロパー化をもって改善を図る方策を次期中期計画期間から実施することを決定し、機能向上に向けて大きな一歩を踏み出すこととなった。</p>	
組織、業務運営等に係る改善事項について		